

女性医師の働く環境改善のための提言

医療における男女共同参画社会の
実現のために2007

保団連 女性部

悩みに直面している家族から

- 息子夫婦はともに医師、妊娠がわかってからも、なんとか当直、待機等をこなしながら働いていた。健康な男性医師でさえ過酷な勤務を妊娠中の女性医師がこなしていくことこの苦労は並たいていの事ではありません。妊娠後期には、過労が原因と思われる妊娠中毒症を発症し、高血圧、蛋白尿が顕著になりむくみもひどく自然分娩も危ぶまれる状況。分娩時の出血も多量で、回復には長い時間がかかりました。半年経っても尿に異常がある状態。
- 努力して手にした医師の道、本人も続けたい意志も持っていますが、キャリアを積みたい今の時期と育児、自分の健康等色々な問題の間で非常に悩んでおります。
- 人間として、女性として大切なこの7～8年の間を、60～70%の力でも働ける方法を考えていただきたい。

2007年7月

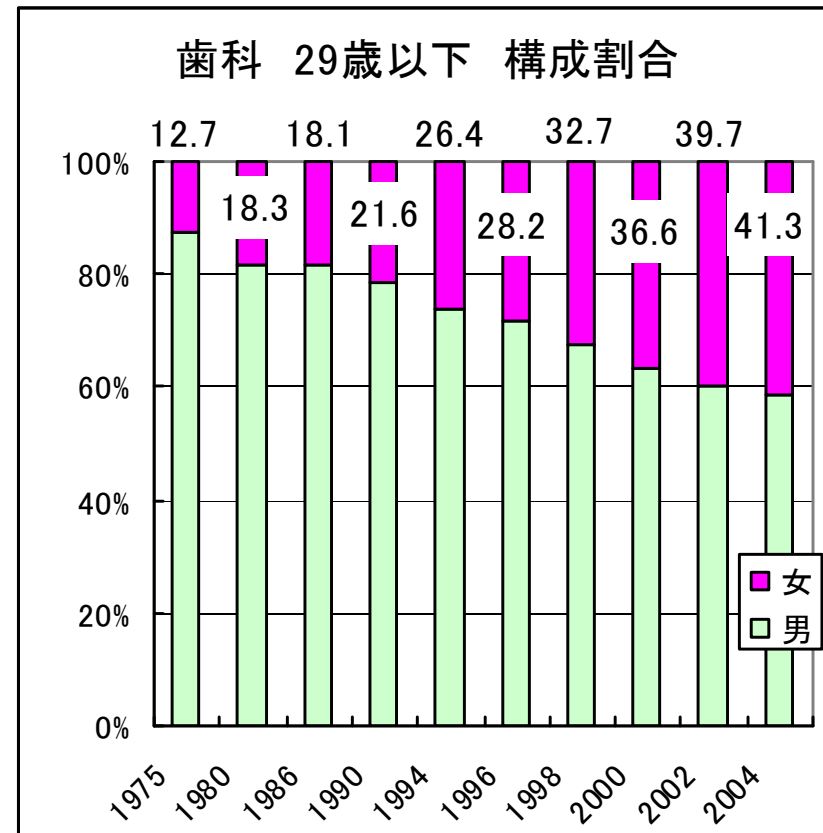
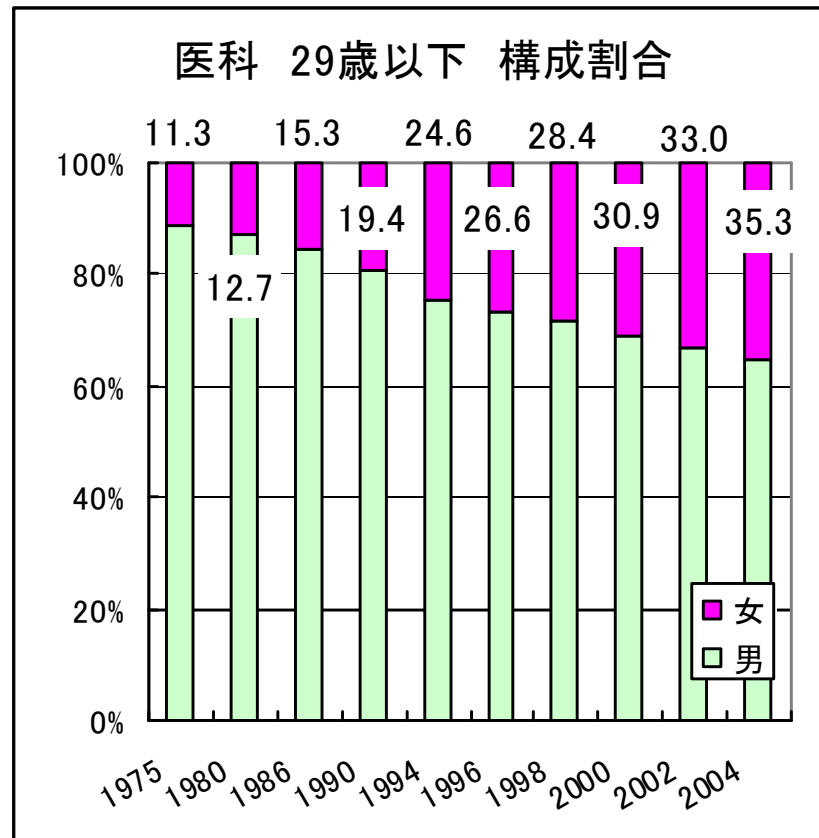
今までの人生について「後悔」

- 子どもの保育園のお弁当から始まり、PTAや歯科医師（常勤の）仕事をこなし、家事（主婦）をやりぬいています。毎日の睡眠は3～4時間あるかどうか。布団の中で就寝するのは学会のホテルだけ、20年間座布団の上で寝ています。（子育て、主婦を親を頼らずに行うのはたいへんです。）

（第22回保団連医療研究集会・共同調査

「医師および歯科医師の精神状況についての意識調査」より2007年10月）

20歳代では3割以上が女性医師



医師・歯科医師・薬剤師調査より

医学部でも半数近くが女性の大学も

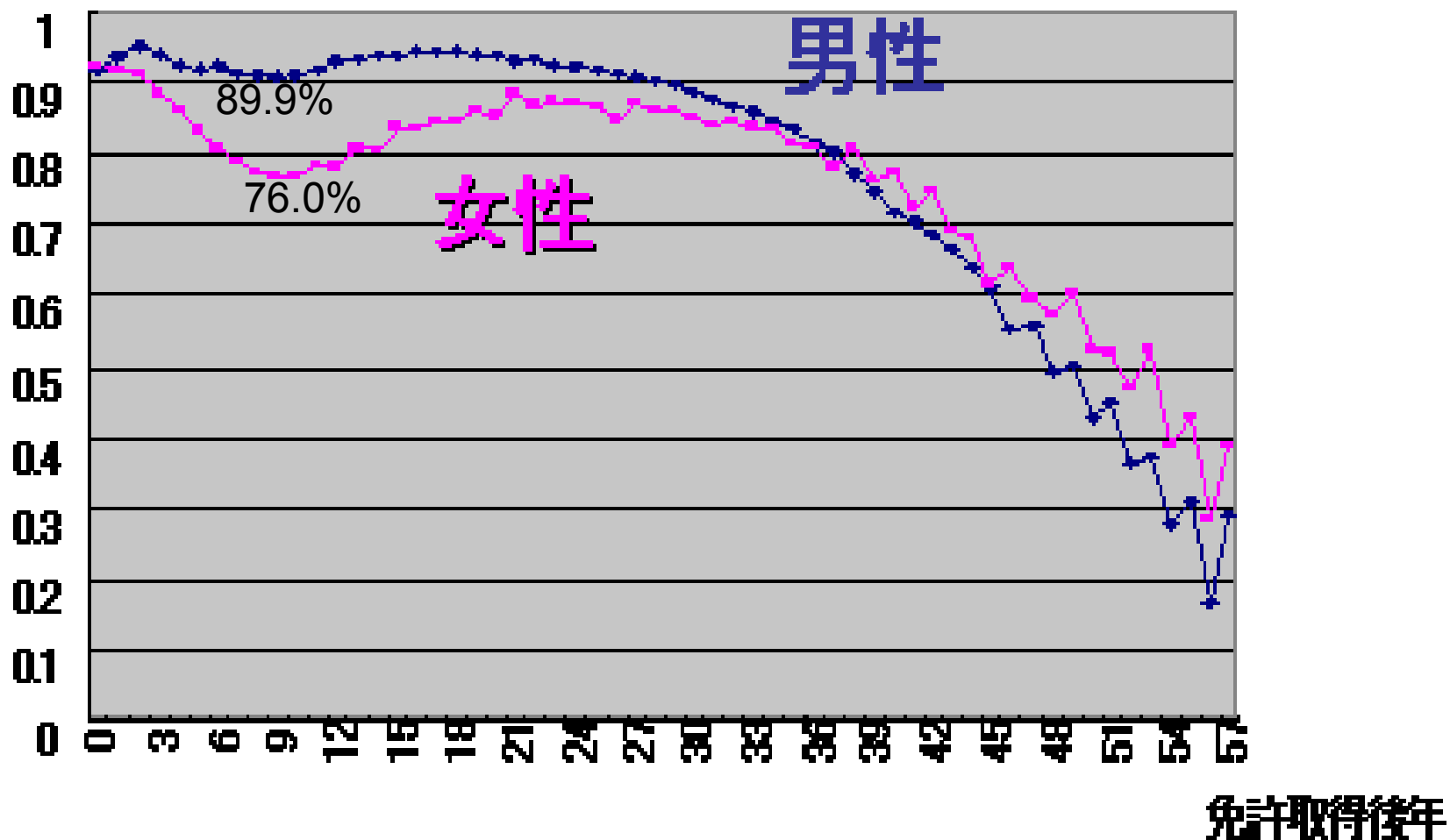
	学生総数	女子%		総数	女子%
佐賀大学	582	47.94	東北大学	626	14.22
高知大学	578	47.4	京都大学	630	17.94
島根大学	579	45.6	東京大学	423	18.2
大分大学	573	43.63	金沢大学	604	18.54
福島県立医科大学	491	42.97	九州大学	632	18.67
宮崎大学	641	42.9	慶応義塾大学	593	19.22
福井大学	619	42.65	東京慈恵会	641	20.28
滋賀医科大学	615	41.14	昭和大学	685	20.29
秋田大学	610	40.66	大阪大学	609	20.85
山形大学	610	40.66	北海道大学	610	20.98

東京女子医科大学は女子比率100%

ジャミックジャーナル2005. 8より

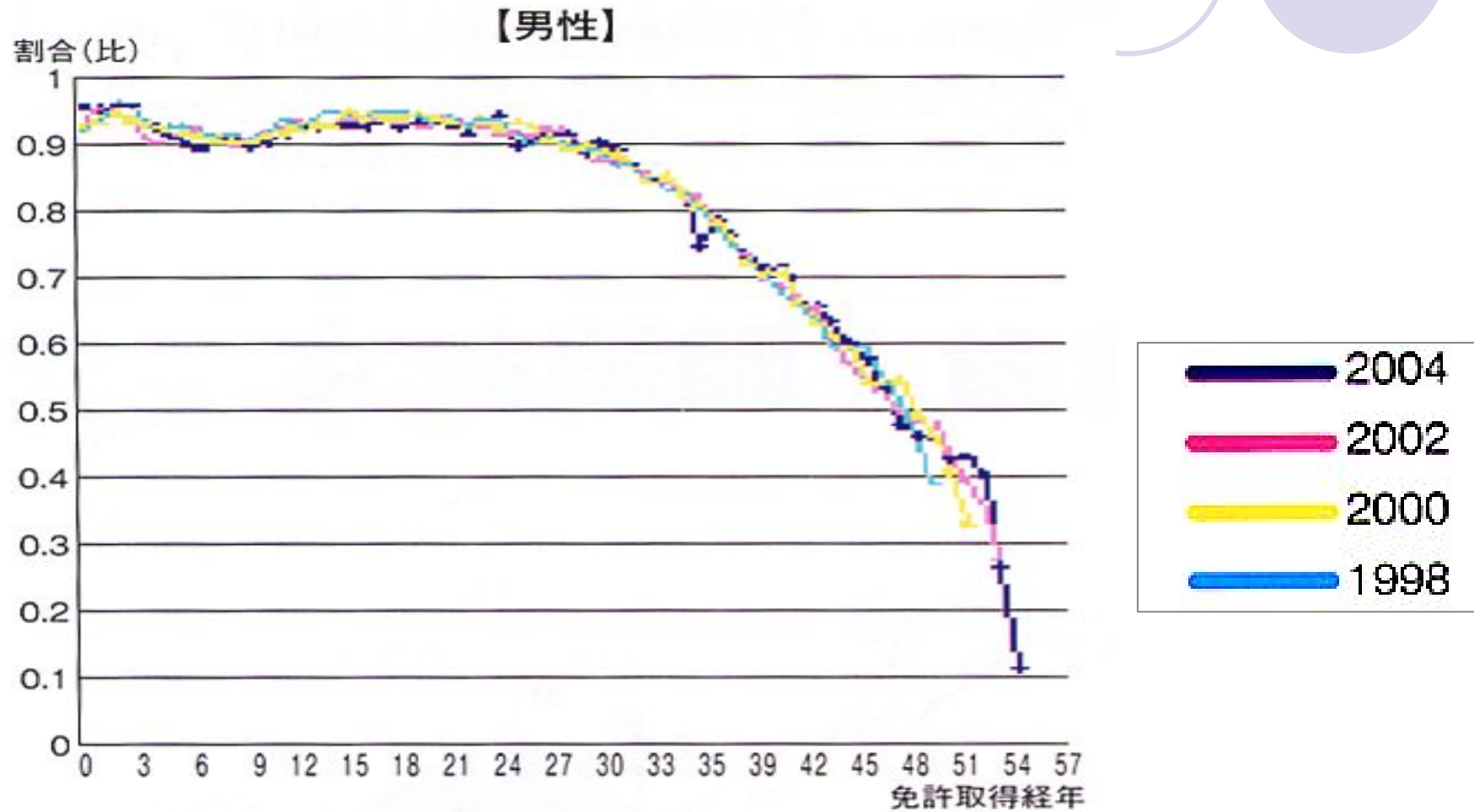
就業率

免許取得後、男女別、1998-2004平均



第12回医師の需給に関する委員会 長谷川委員資料より

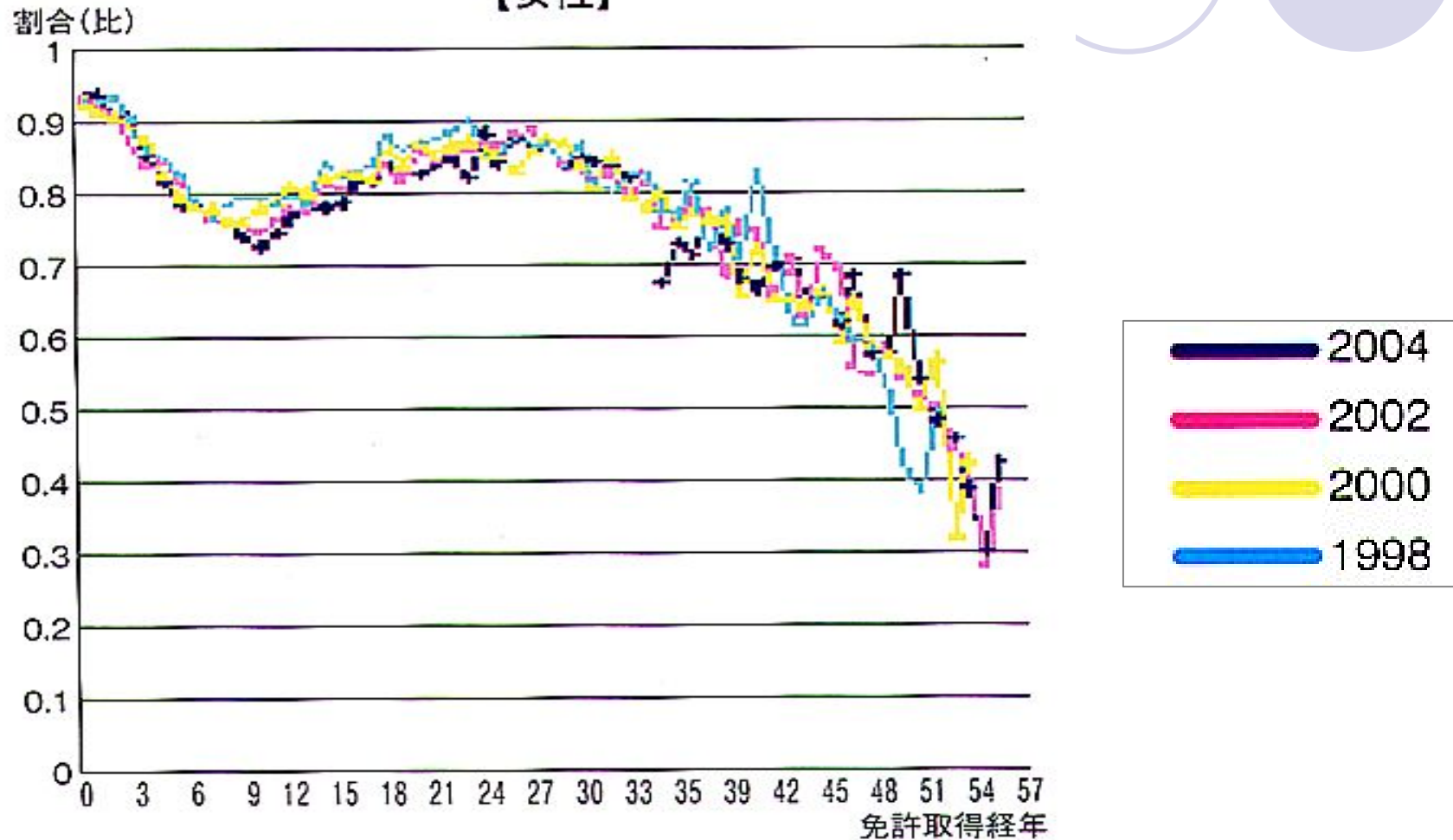
男性医師就業割合（免許取得後、1998～2004）



第12回医師の需給に関する委員会 長谷川委員資料より

女性医師就業割合（免許取得後、1998～2004）

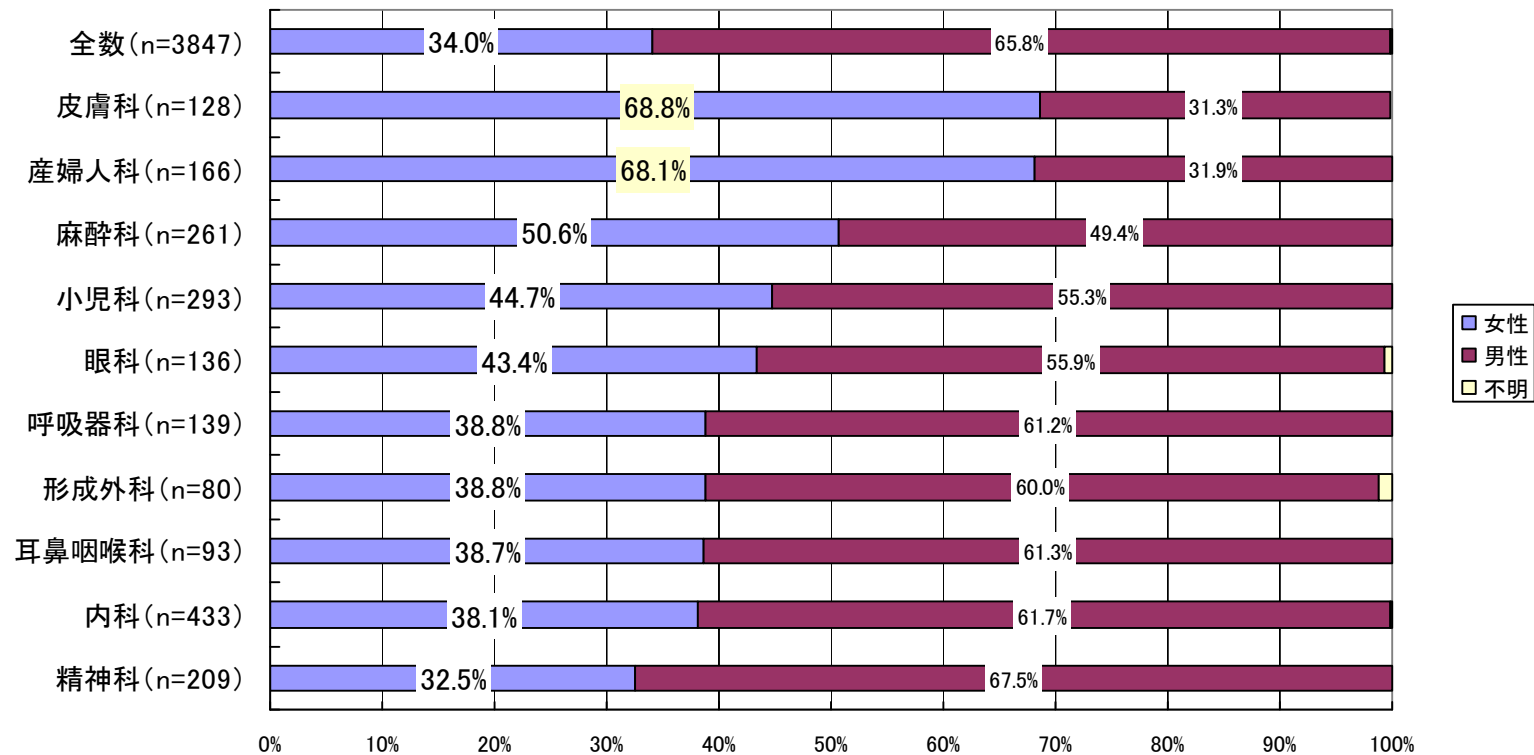
【女性】



第12回医師の需給に関する委員会 長谷川委員資料より

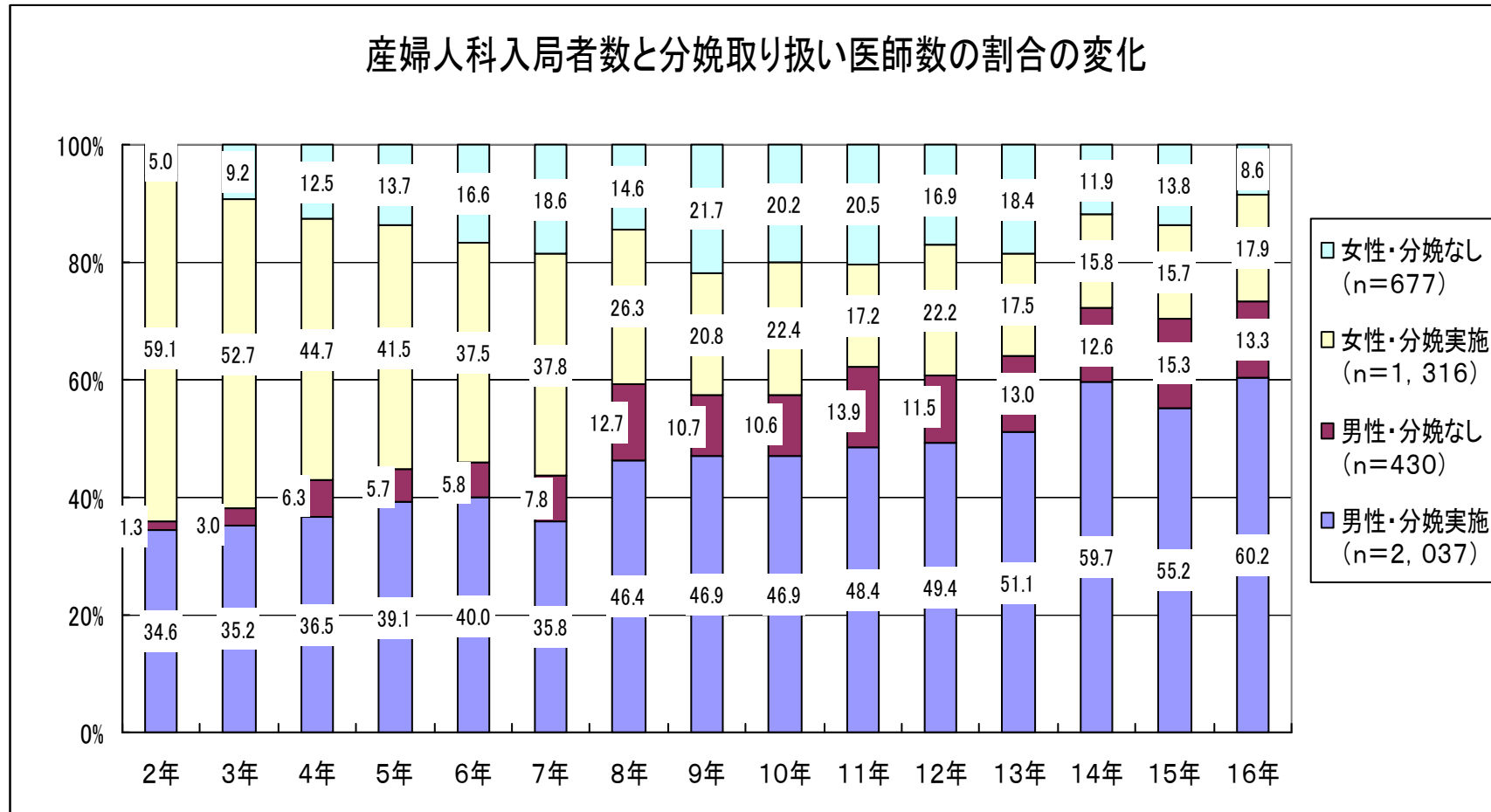
産婦人科を目指す研修医の7割近くが女性

研修医が専門としたい診療科
(女性比率の多い上位10科)



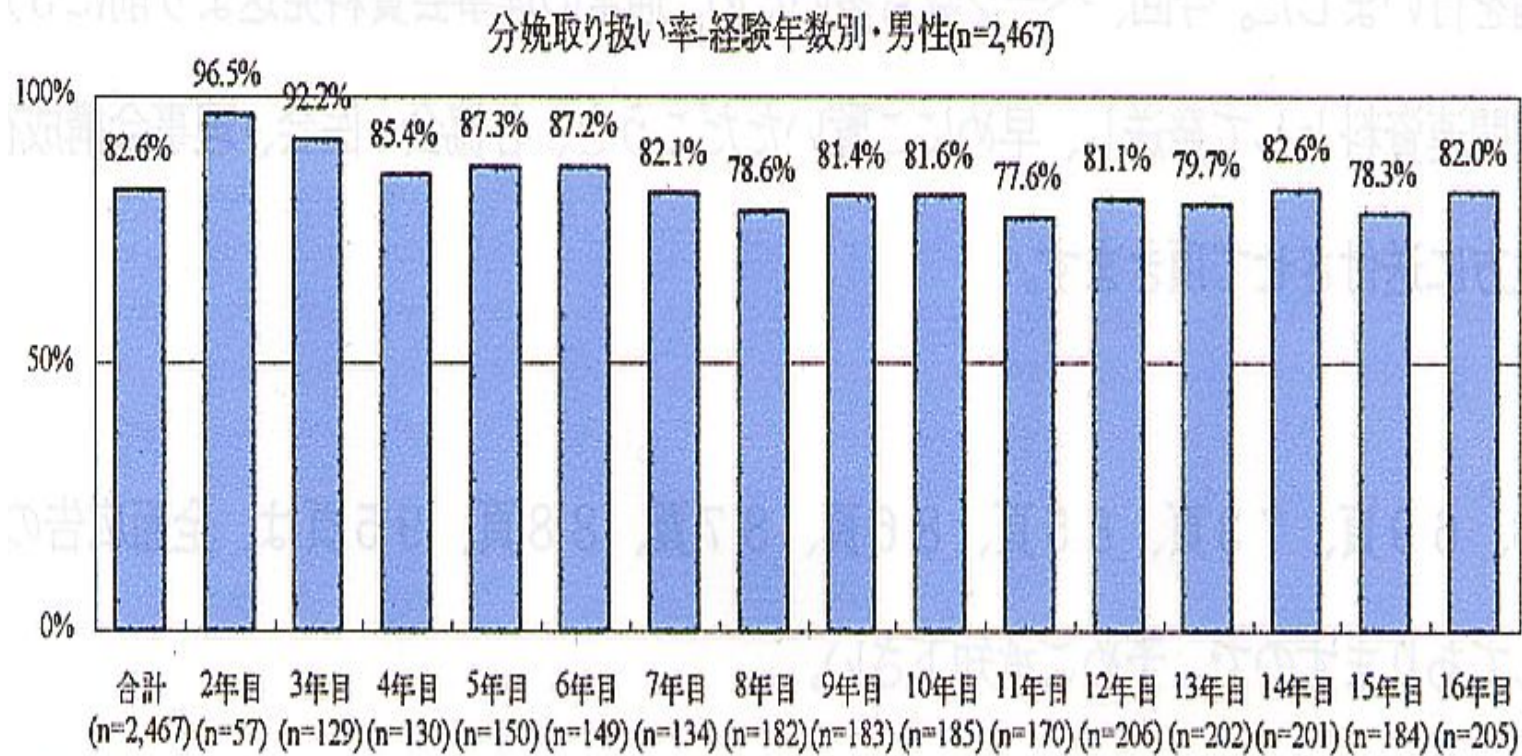
厚労省「臨床研修に関する調査」(H19. 9)より

実際に、20代では女性の方が分娩（お産）の扱いは多い



女性医師を中心とした産婦人科医の就労状況についての調査報告(日本産婦人科学会 日医総研 H19. 6)

男子医師の分娩取り扱いの割合

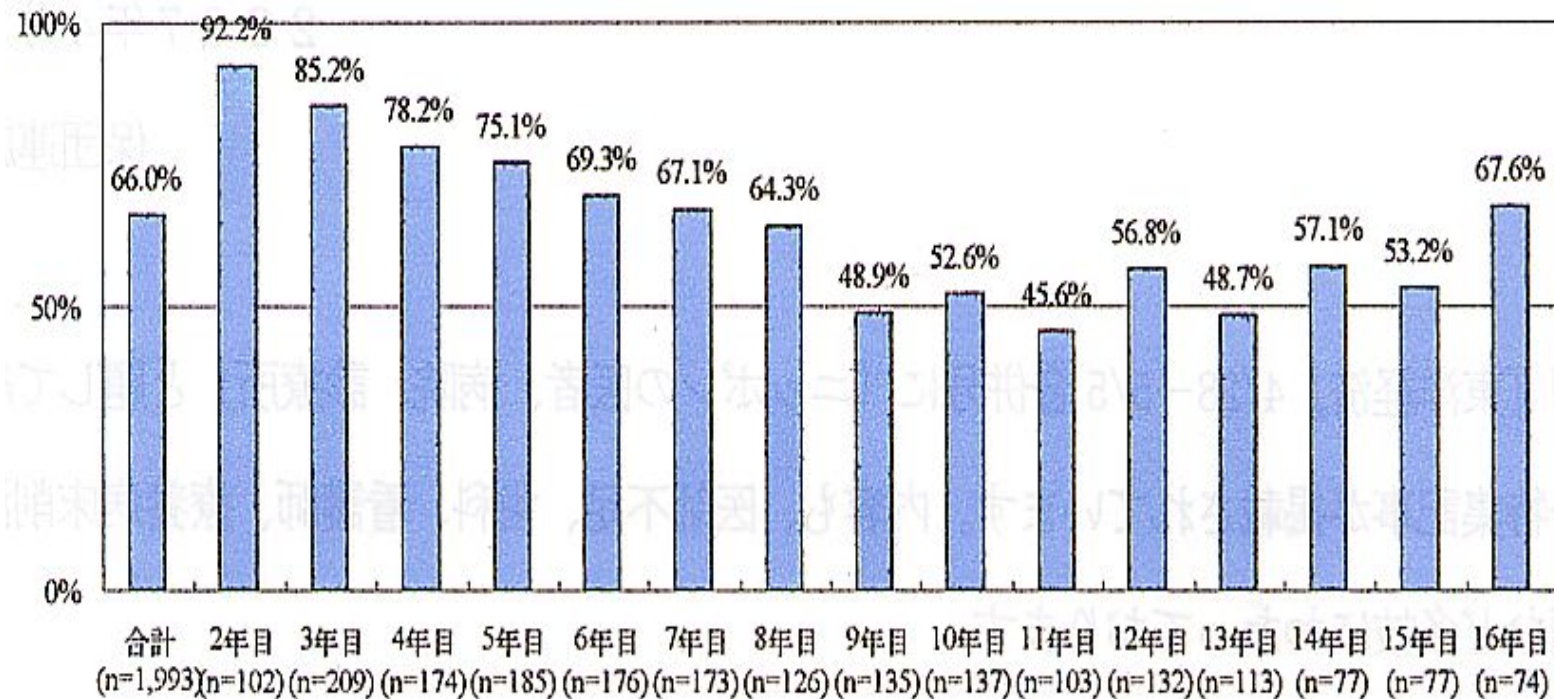


※nは医師数

日本産婦人科学会報告(2007.10.5)より

女性医師の分娩取り扱いの割合

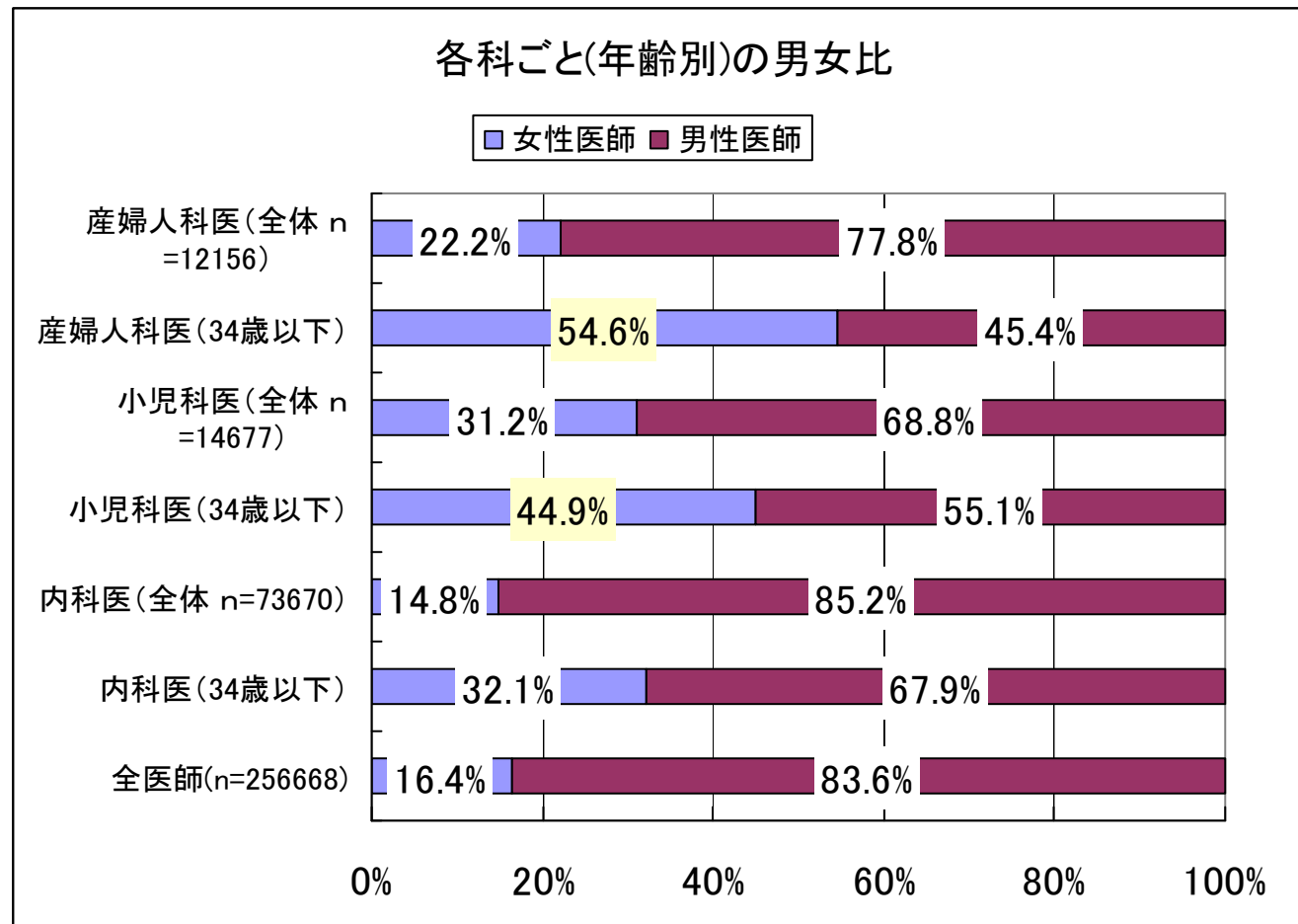
分娩取り扱い率-経験年数別・女性(n=1,993)



※は医師数

日本産婦人科学会報告(2007.10.5)より

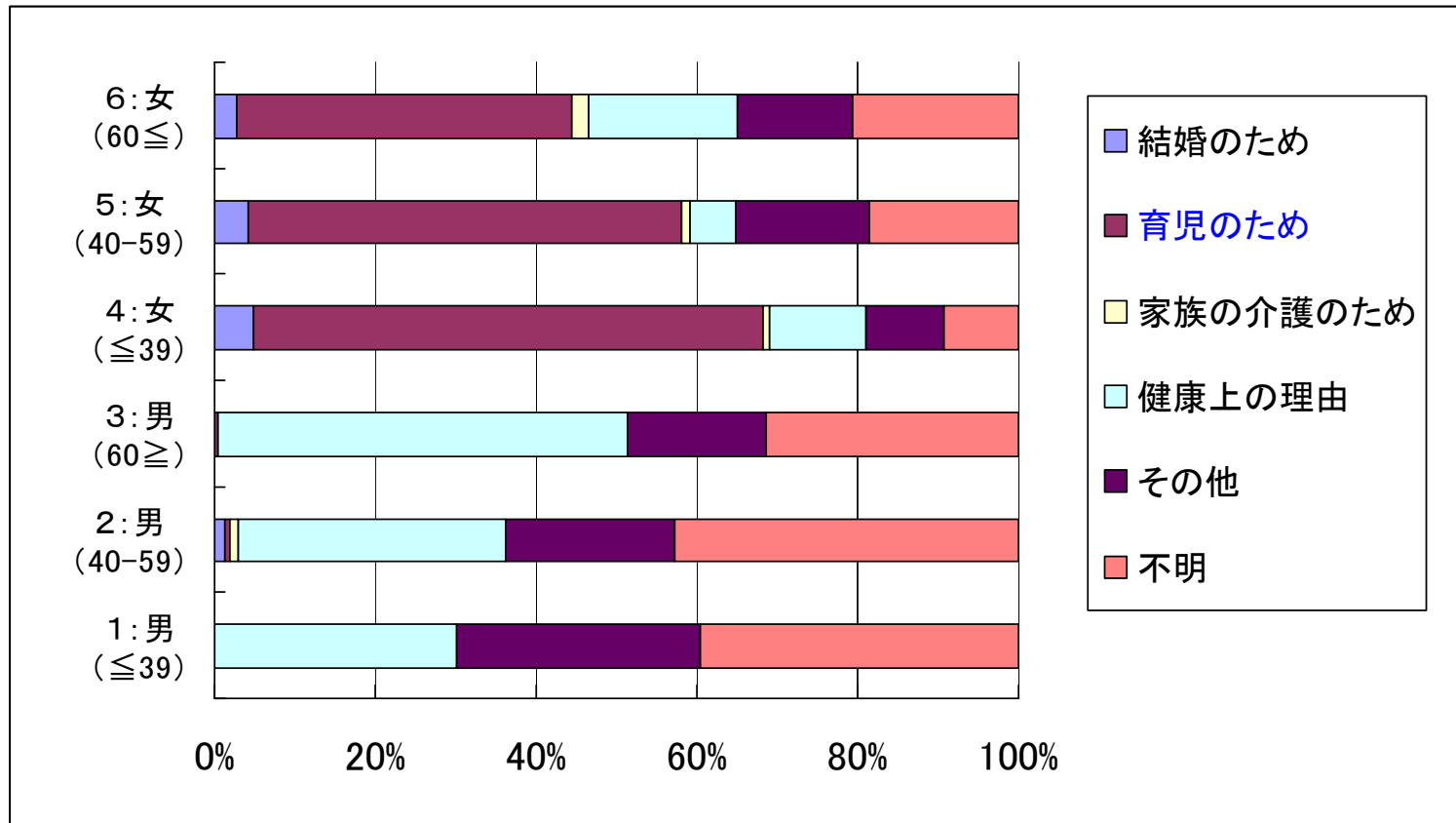
医師不足が深刻な産科や小児科では



H16 医師・歯科医師・薬剤師調査より

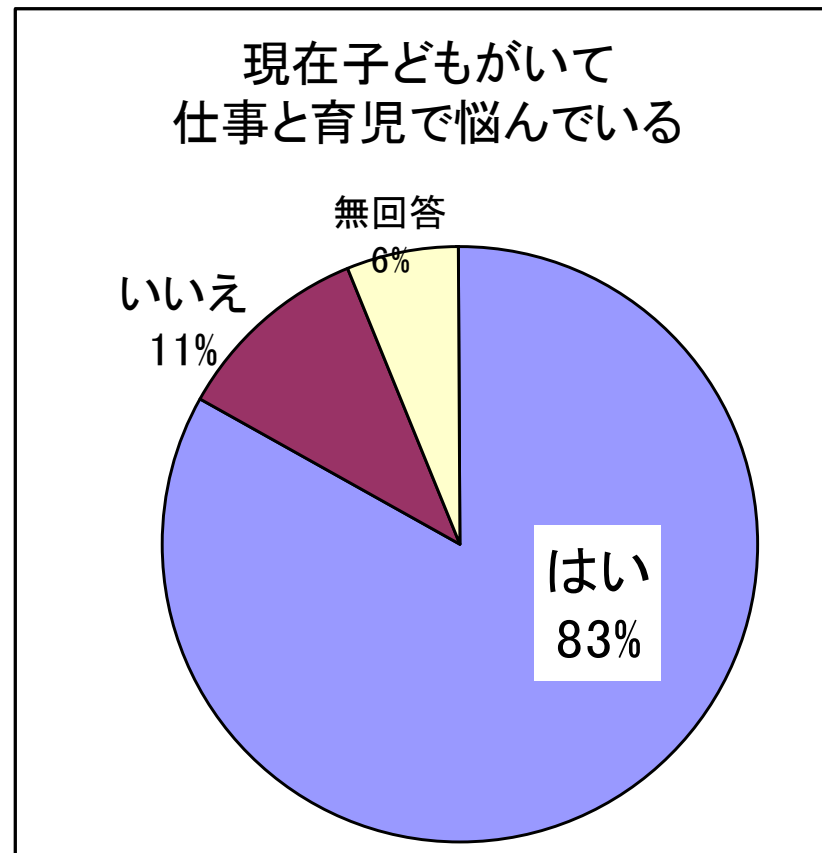
育児しながら仕事を続けることが難しい

休職中あるいは休職したことがある場合 その理由



女性医師支援に関する研究(大澤教授)より(05年3月)

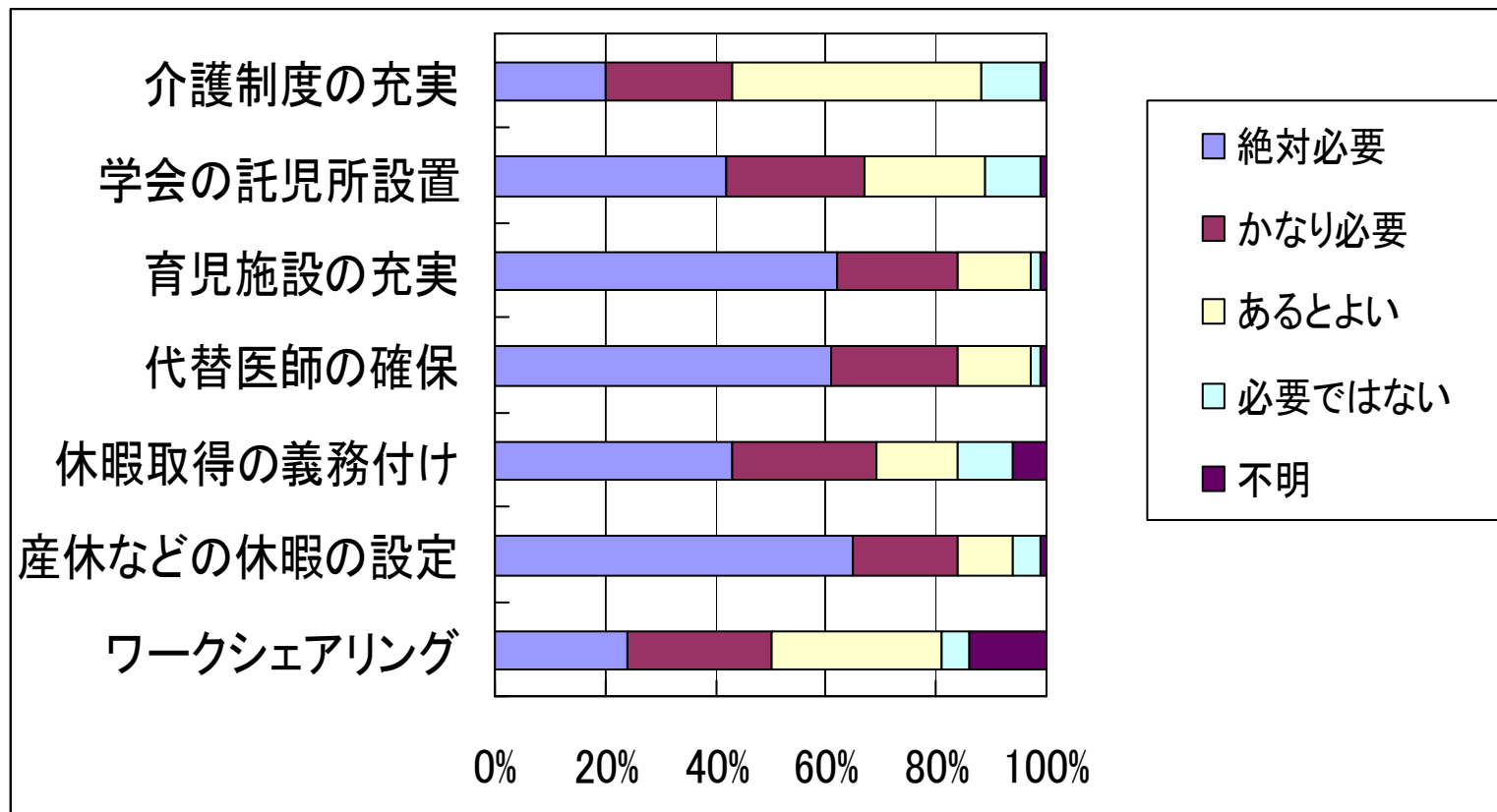
多くが仕事と育児で悩んでいる



05年12月実施 福島県内病院勤務医の女性医師(55名)アンケート調査より

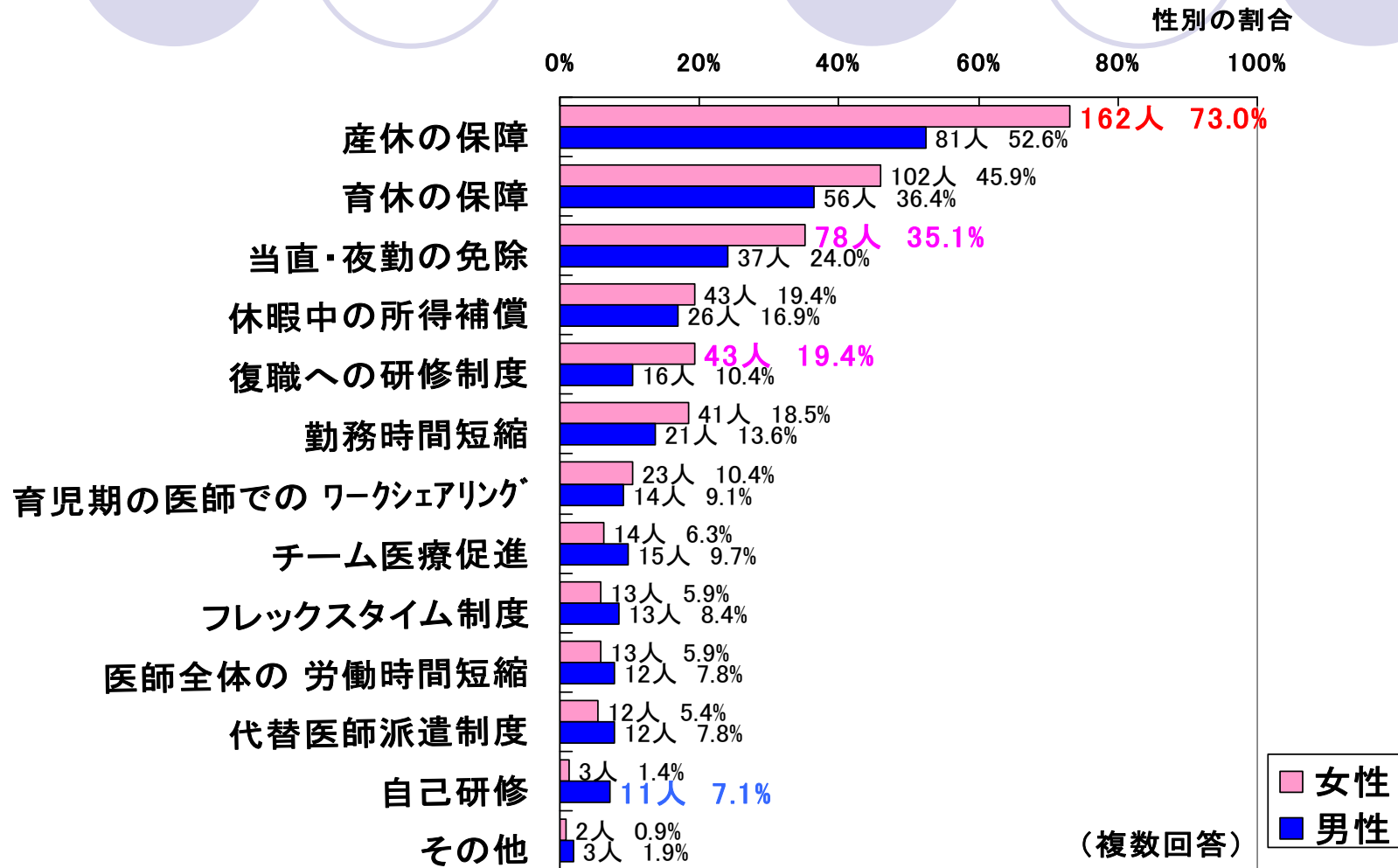
仕事の充実のために必要な制度

39歳以下の女性医師の場合



H16 女性医師支援に関する研究より

妊娠出産育児期に必要なこと(職場環境)

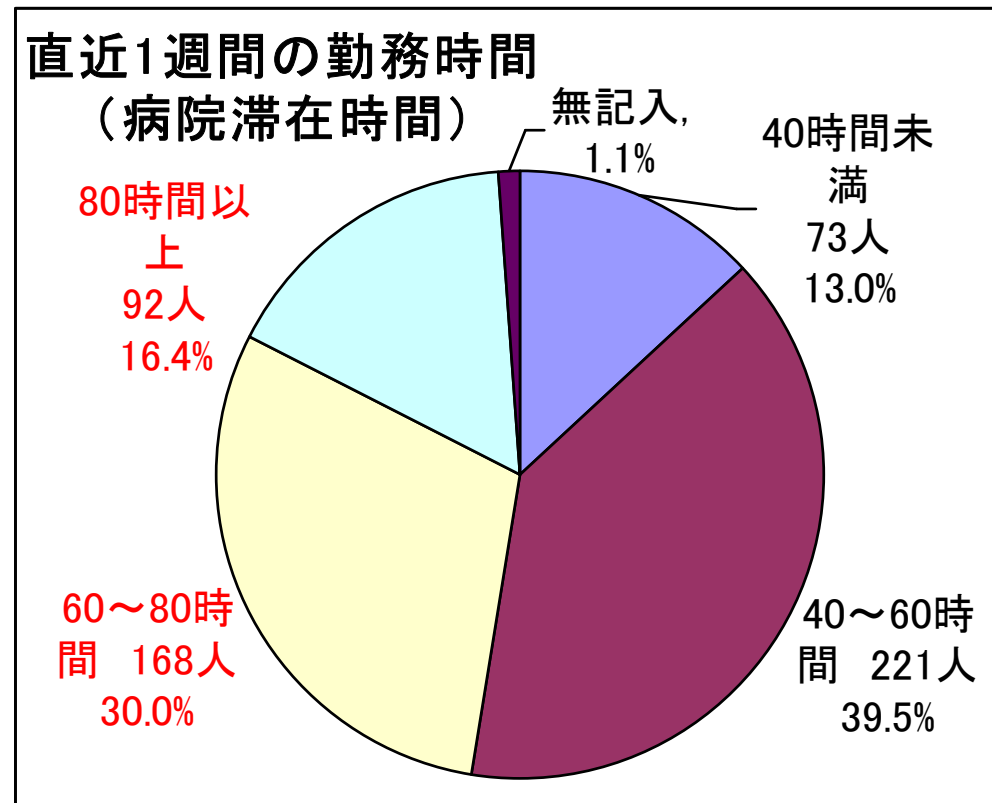


2005実施 愛知協会・医学生・歯学生・研修医アンケートより

各地の保険医新聞に寄せられた会員の声

- 愛知協会(産婦人科医師)
- 都会の1人産婦人科部長、年間200に満たない分娩を扱う。普段は暇そうに見えるが、労働密度は低くても「24時間戦えますか」を年中無休で要求されるのが産婦人科医。
- 普段は暇でも、立て込む時は一日に数人お産が入り、外来を中座してお産をやり、戻ってまた外来。一週間のうち4回帝王切開をやることも。
- 一人医長は誰にも相談できない。どんな決断も自分一人で下さねばならず、時にはその判断が母子の命を左右する。
- 常に呼び出しに備えている状態で熟睡はできず、慢性的に緊張した状態を保つことは重圧。
- 兵庫協会(眼科非常勤医師)
- 研修2年後、大学院で一人目出産、その後今の病院に常勤として赴任。
- 5年勤務後、二人目出産。当時眼科は常勤3人。自分が産休をとると、後の二人に負担がかかる(1.5人分の仕事に)。負担が大きいのと、復帰後の自分の体力に自信がなかったの
で退職。代替りの常勤医が大学から派遣された。
- 出産を機会に週に1回、同じ曜日の外来を担当するような非常勤になるケースが多いが、なかなか常勤医に戻りにくい現状。常勤医の3分の2あるいは半分の時間勤務できれば続けやすい。
- 当直しても次の日普通に勤務をしなければならぬ状況は改善が必要。

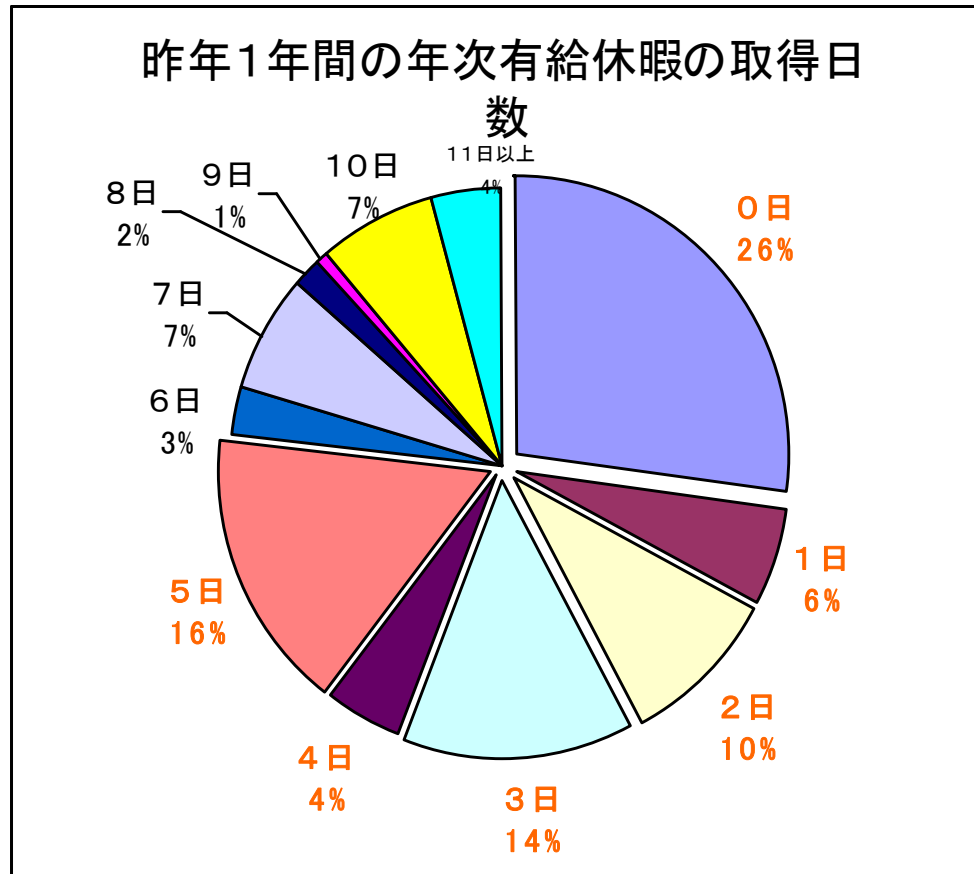
勤務医の働く環境は男女問わず過酷



大阪協会実施「勤務医の労働環境実態調査(06年12月)」より

男女問わず約半数が過労死認定基準に該当

休みがとれない



医労連「医師の労働実態調査(07年4月)」より

女性医師の「妊娠時の異常」6割以上

全回答数 46

順調	17	37.0%
つわりがひどい	12	26.1%
貧血	11	23.9%
切迫流産	11	23.9%
出血	4	8.7%
むくみ	11	23.9%
蛋白尿	1	2.2%
妊娠中毒症	1	2.2%
子かん		0.0%
その他	9	19.6%

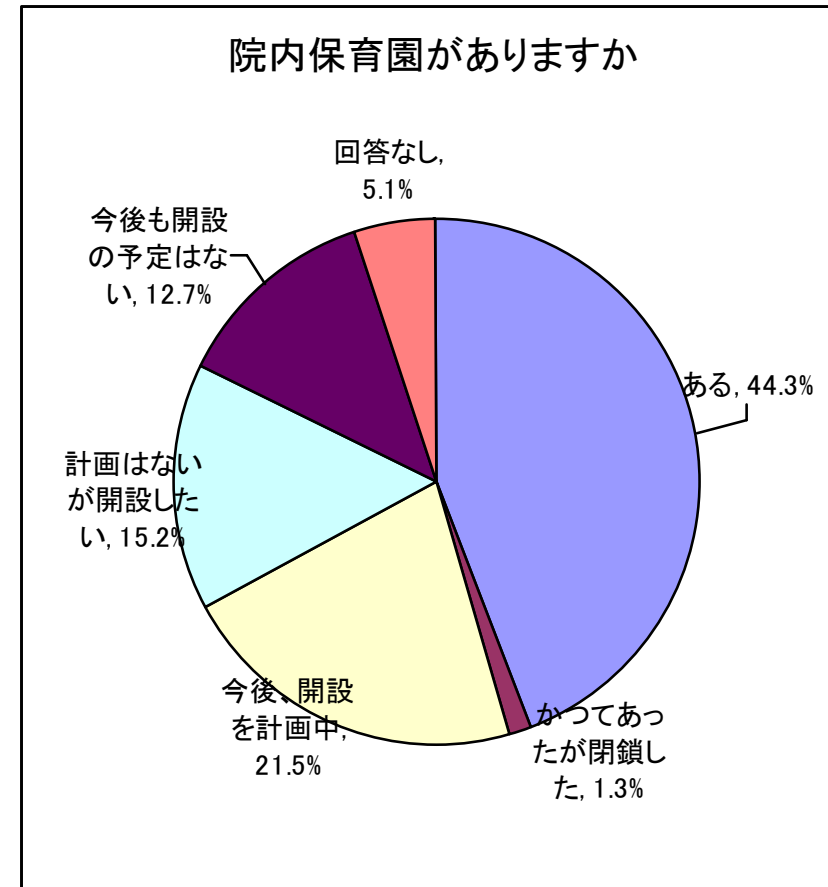
日本医労連「医師の労働実態調査」07年より

年々減らされてきた 院内保育所補助事業の予算

病院内保育所運営事業の予算 年次推移

	予算額	交付予定箇所数
平成14年度	21億6400万円	1,259
平成15年度	21億1400万円	1,259
平成16年度	16億8400万円	1,045
平成17年度	16億8400万円	1,045
平成18年度	12億2800万円	—
平成19年度	12億6100万円	—
平成20年度	16億0000万円	—

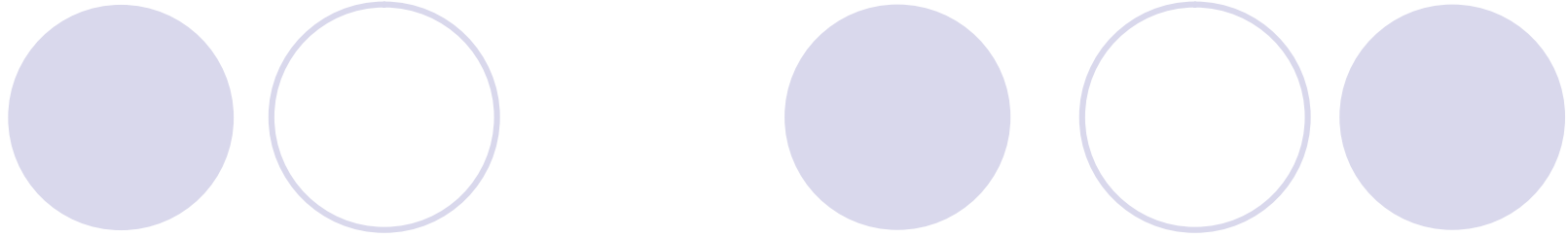
厚労省提出資料より



ジャミックジャーナル07. 2月号
大学・大学病院アンケートより

熊本大学の場合

- 院内保育所「こぼと保育園」
- 看護婦授乳室としてS40年代に設置され、広く大学職員が利用している
- しかし看護師の利用者がいなくなると補助金（年間300万円）が打ち切られる**存続の危機**
- 保育園があったから仕事を続けられた女性医師の声を聴く会
- 「運営委員会」の署名に協力・・・「病院付属保育園にしてください」
- 病院長に署名を提出・・・継続を約束



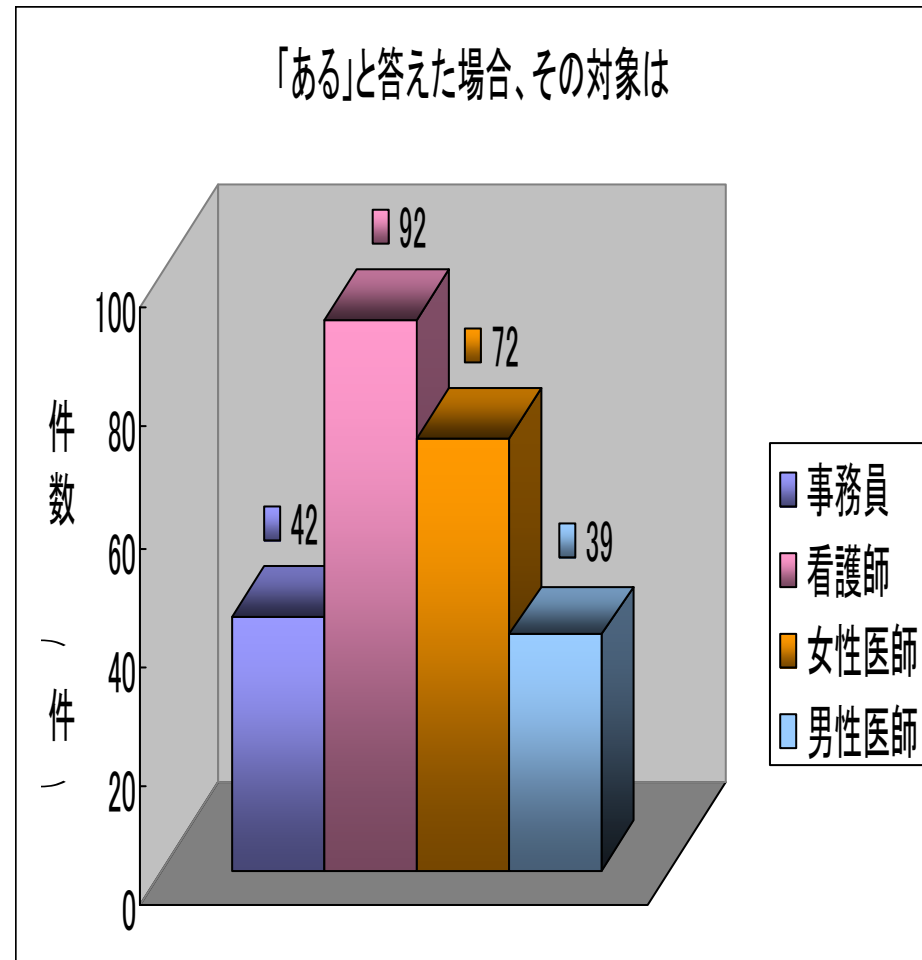
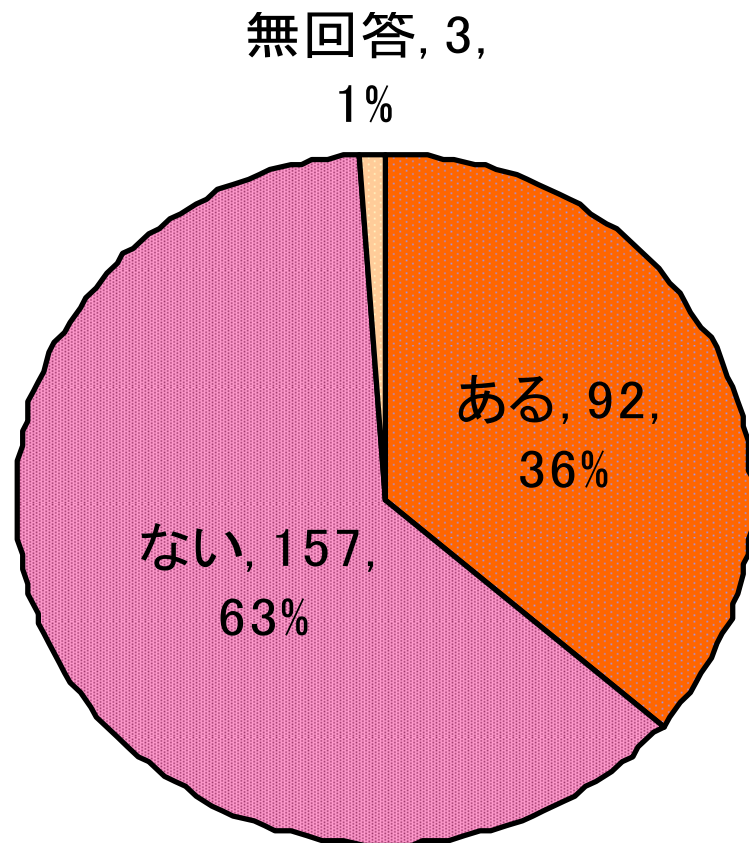
- 2004年：熊大医学部病院付属こぼと保育園に
- しかし運営主体は「運営委員会」
- 利用者に看護婦の条件がなくなったので存続問題はなくなった
- 園児：30人程度
- 補助金：年間300万円程度は不変

熊本県健康福祉部

医療政策総室

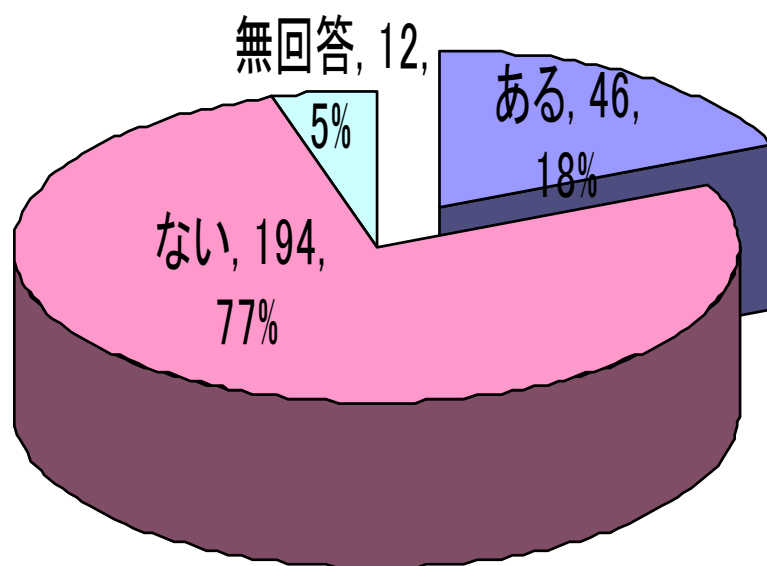
- 女性医師継続支援担当者配置
H18年度講演会「女性医師の勤務環境をめぐる諸問題」
H19年度計画
実態調査・病院管理者ワークショップ・
女性医師・病院管理者アンケート
- 院内保育所関連
「子どもを持つ看護婦確保対策事業」(S62～)から
「病院内保育所運営事業」(H14～)へ
しかし管轄は看護課のまま：
担当者は少子化のため希望者は少なく量より質が問題
という認識

愛知県の場合 病院内の保育施設の有無と対象者

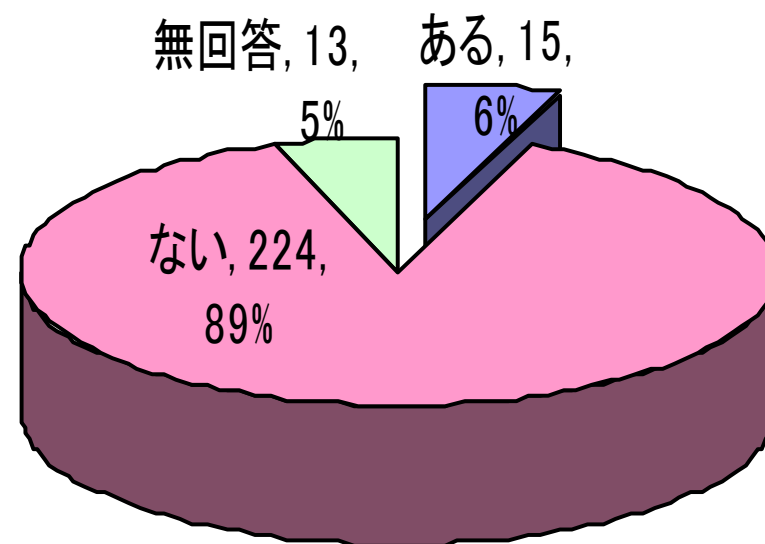


愛知県医師会実施 女性医師に関するアンケートより<協力医療機関 251病院(アンケート回収率72%)>

夜間保育の有無

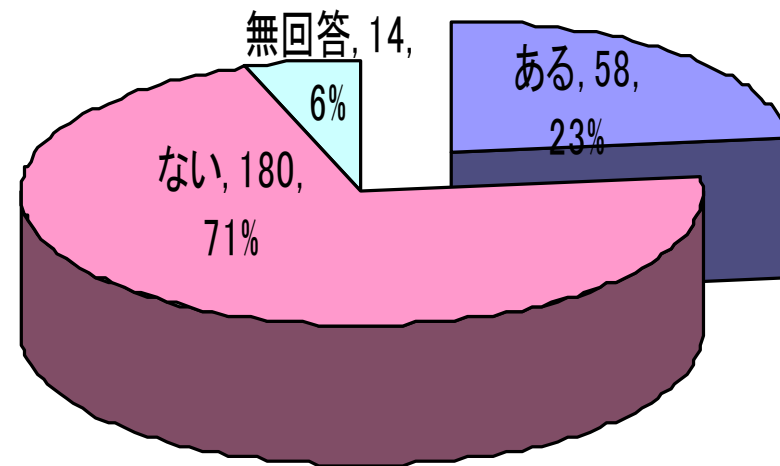
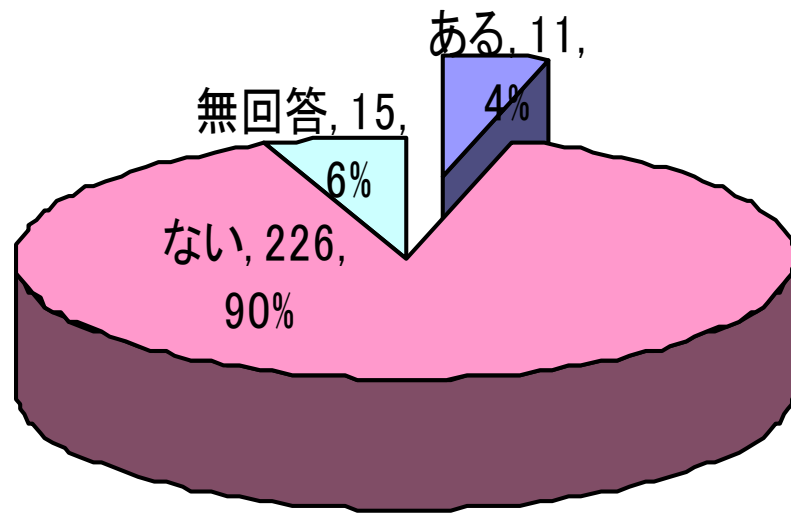


病児保育室の有無



愛知県医師会実施アンケートより

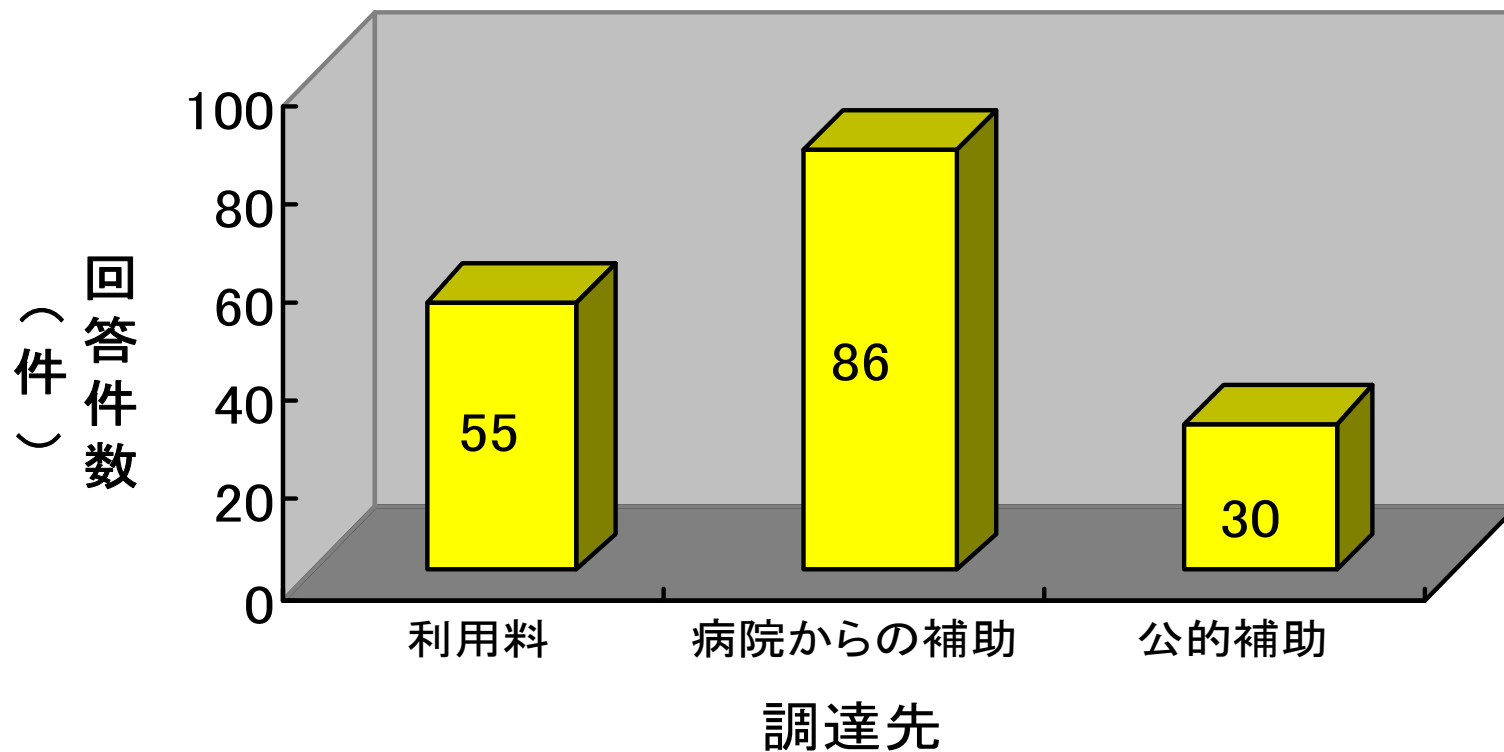
病後児保育室の有無



緊急一時保育の有無

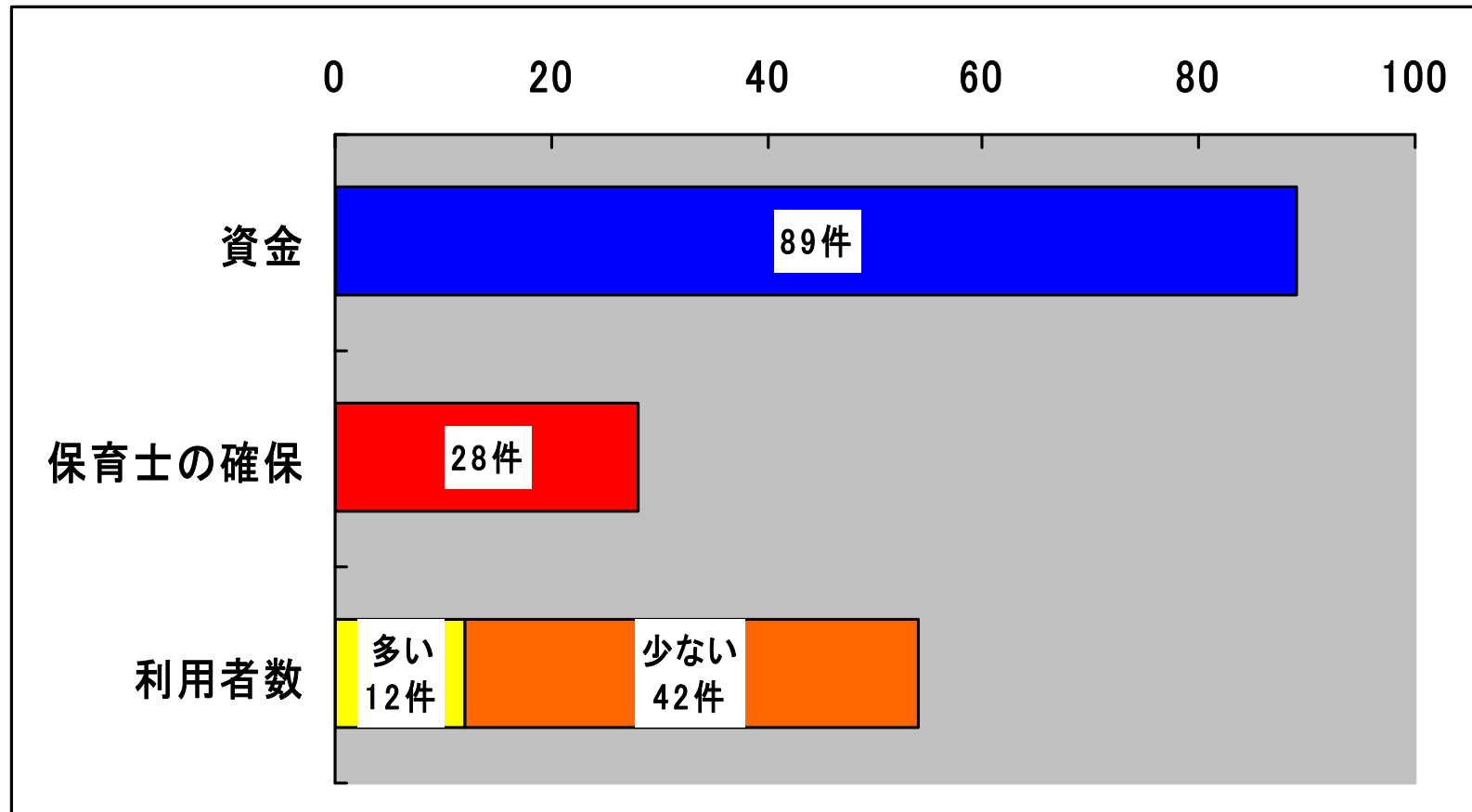
愛知県医師会実施アンケートより

院内保育をしている方の運営資金 (複数回答可)



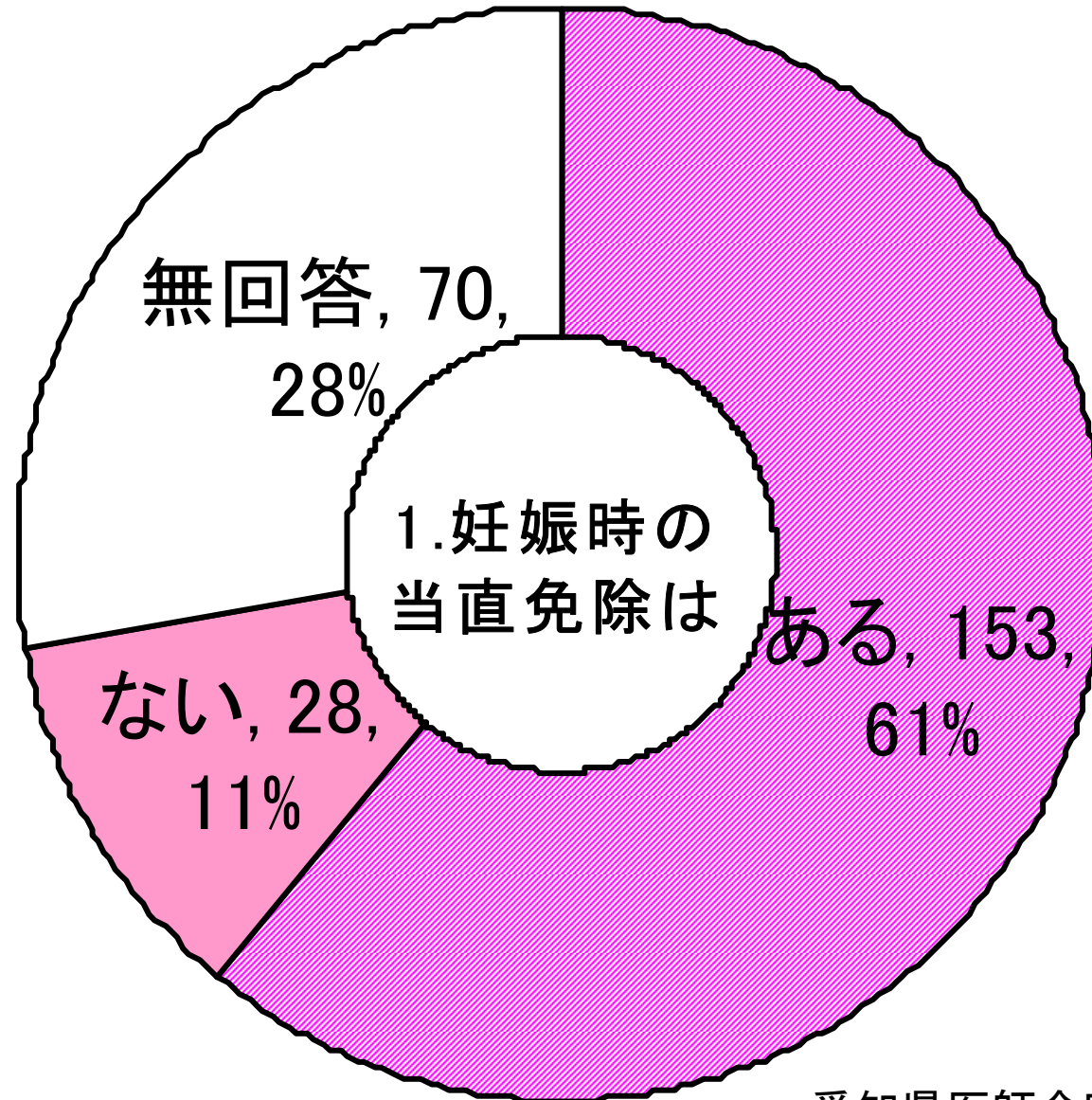
愛知県医師会実施アンケートより

院内保育運営上の難しい点 (複数回答可)



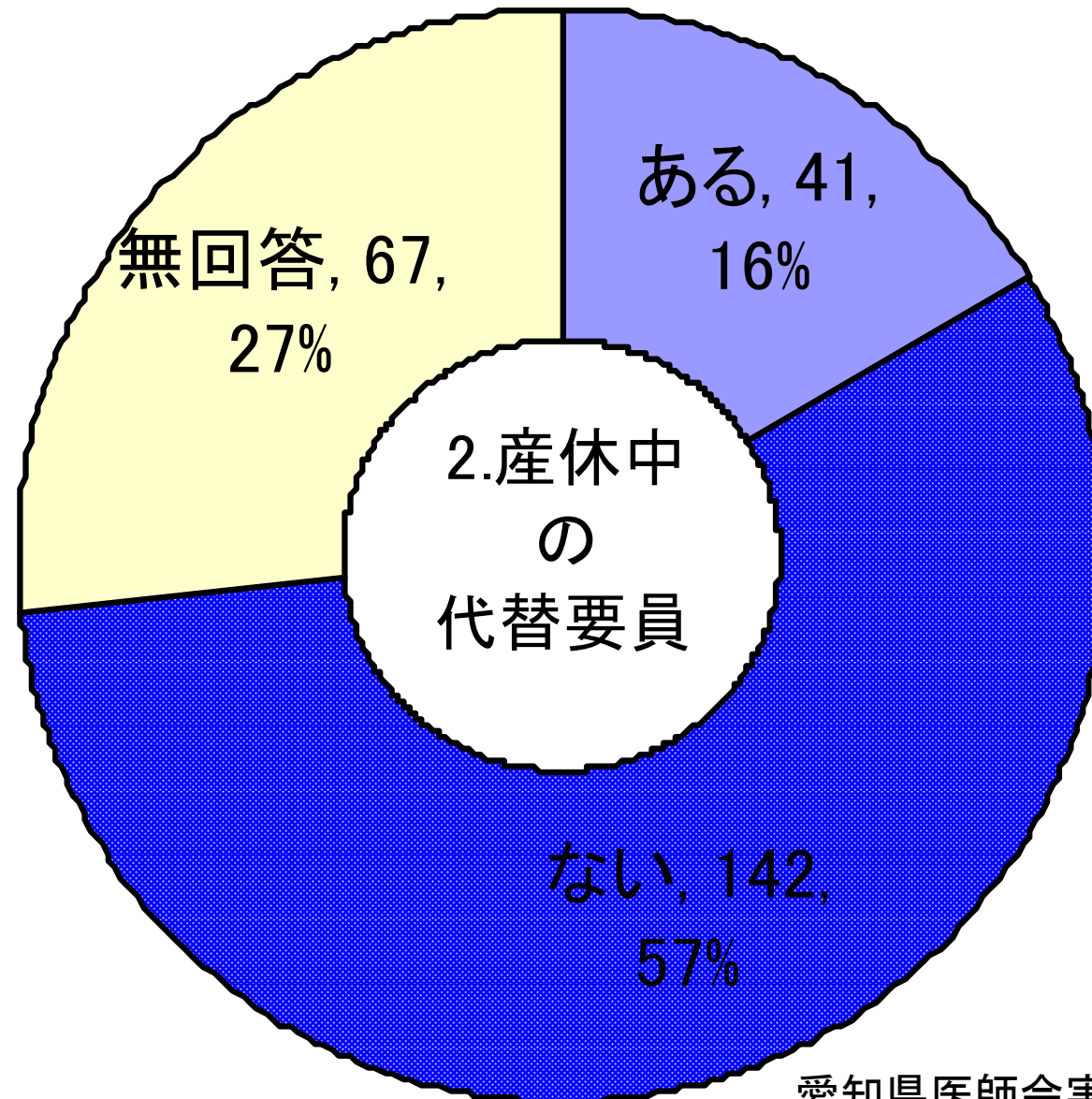
愛知県医師会実施アンケートより

常勤医について
妊娠時の当直免除は



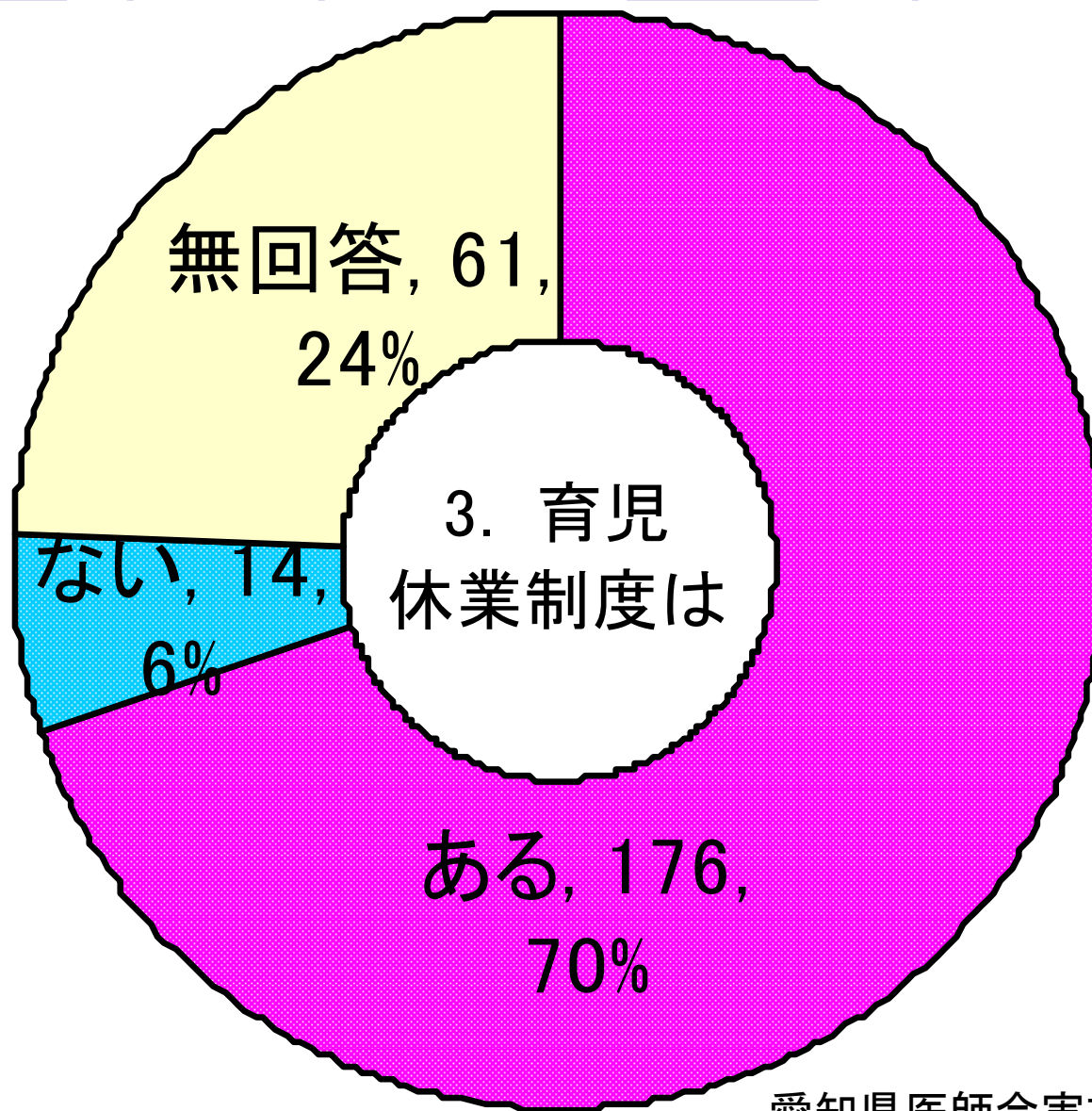
愛知県医師会実施アンケートより

常勤医について
産休中の代替要員は



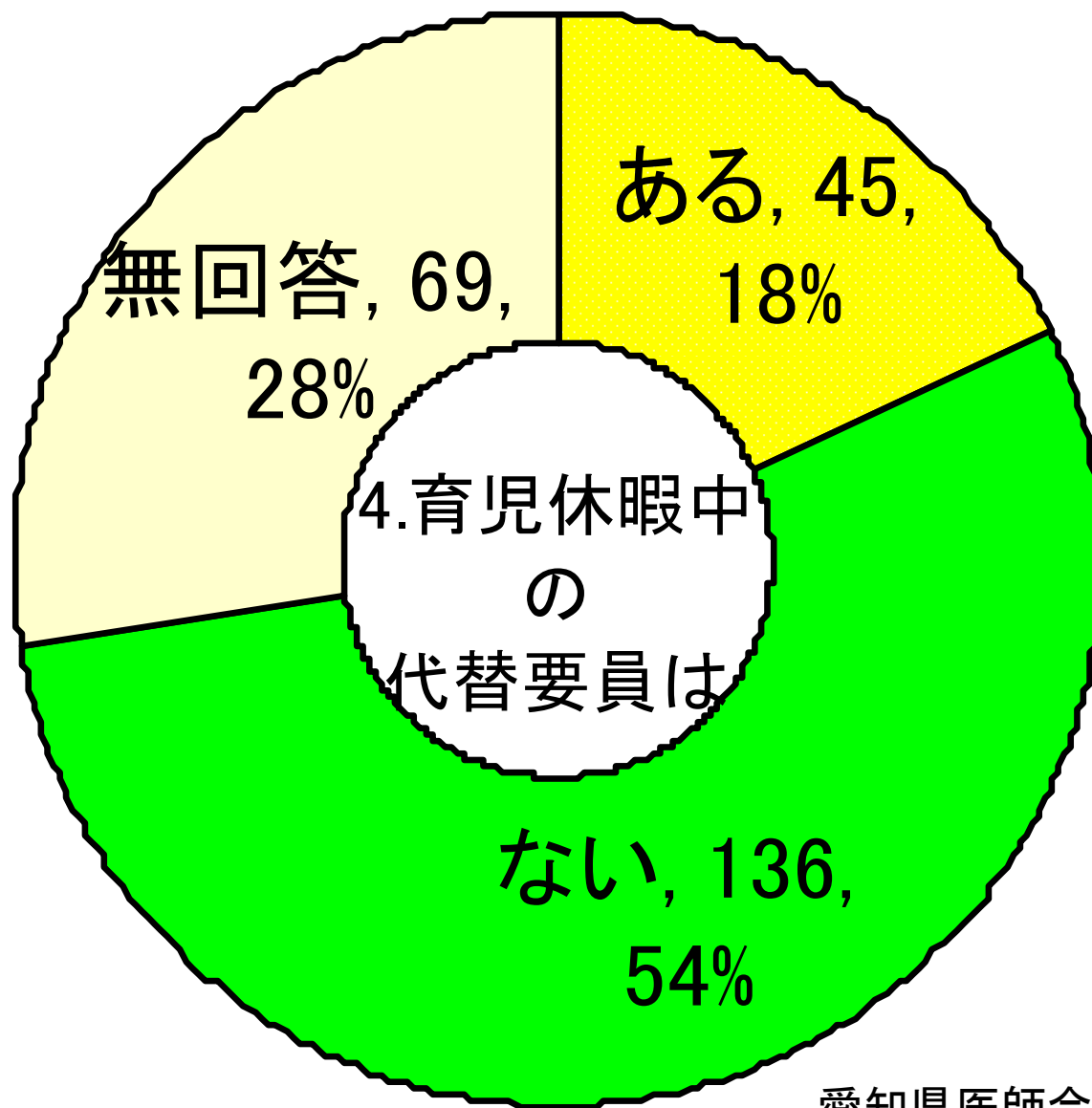
愛知県医師会実施アンケートより

常勤医について
育児休業制度は



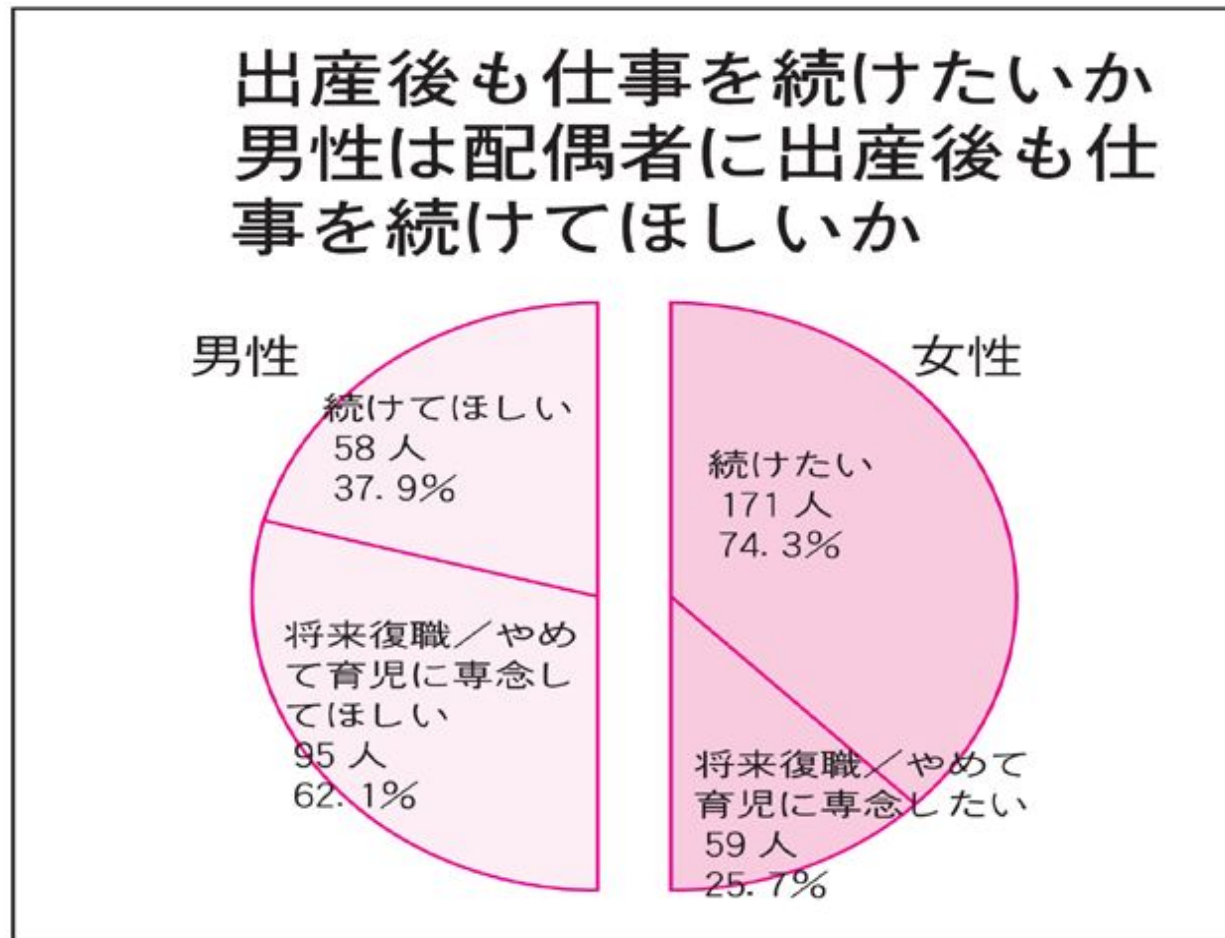
愛知県医師会実施アンケートより

常勤医について
育児休業中の代替要員は



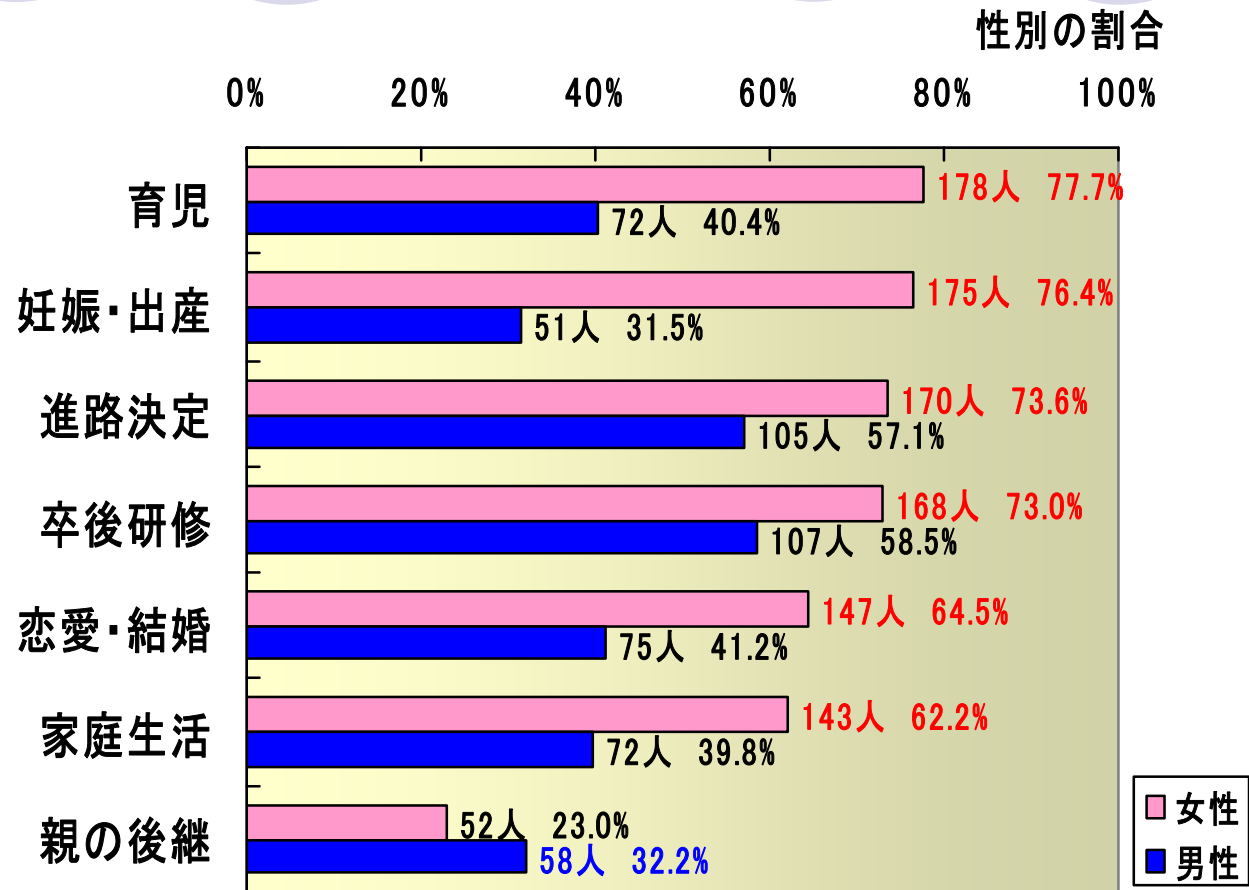
愛知県医師会実施アンケートより

出産後も仕事を続けたい・・・



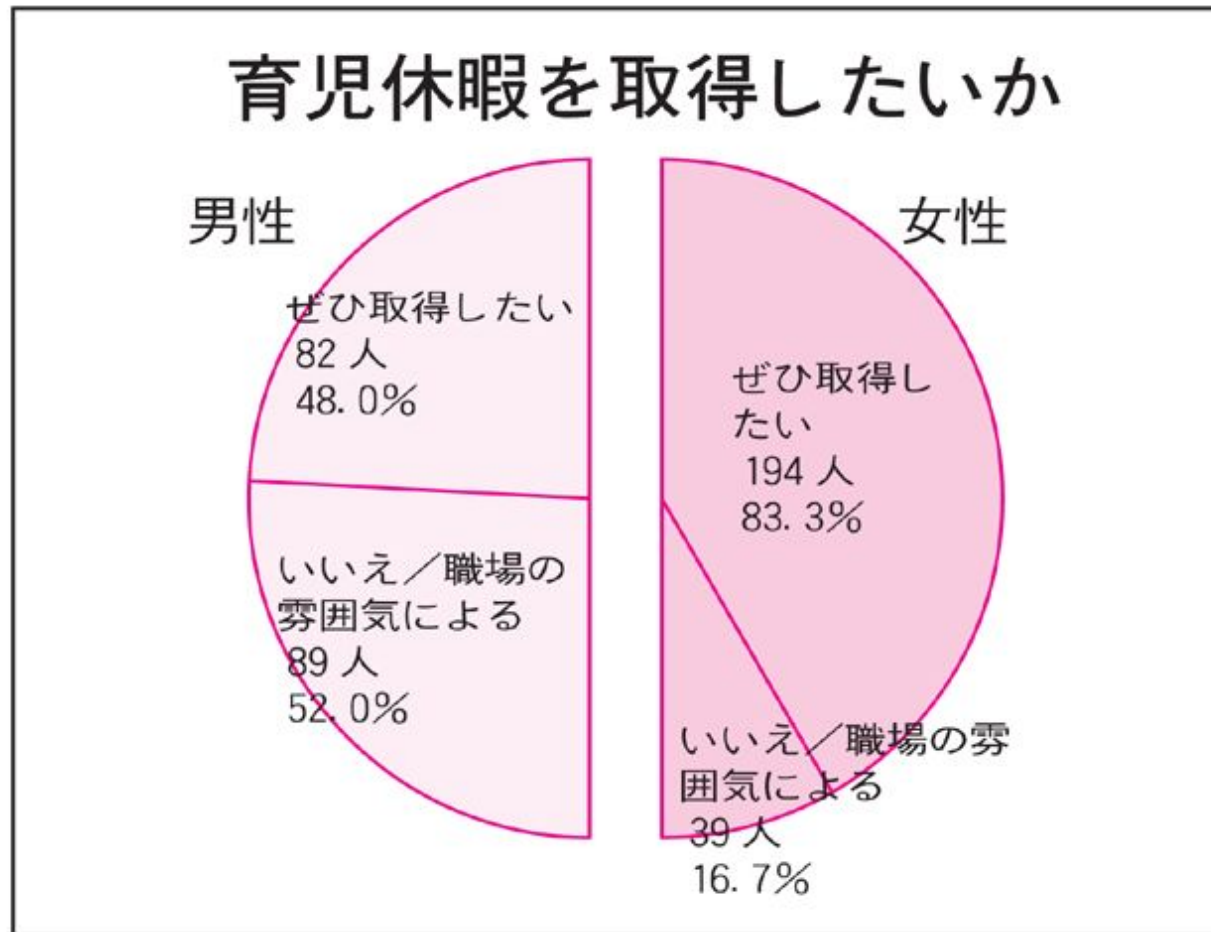
2005年 愛知協会実施 医学生・歯学生・研修医アンケートより

今後起こりうる出来事に不安がある



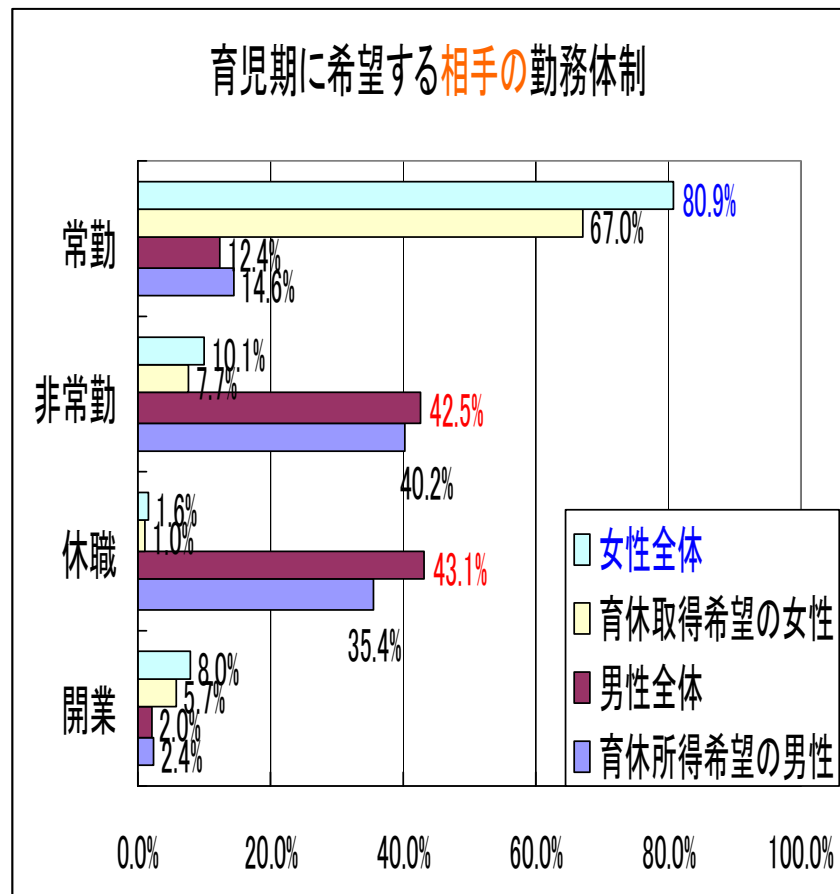
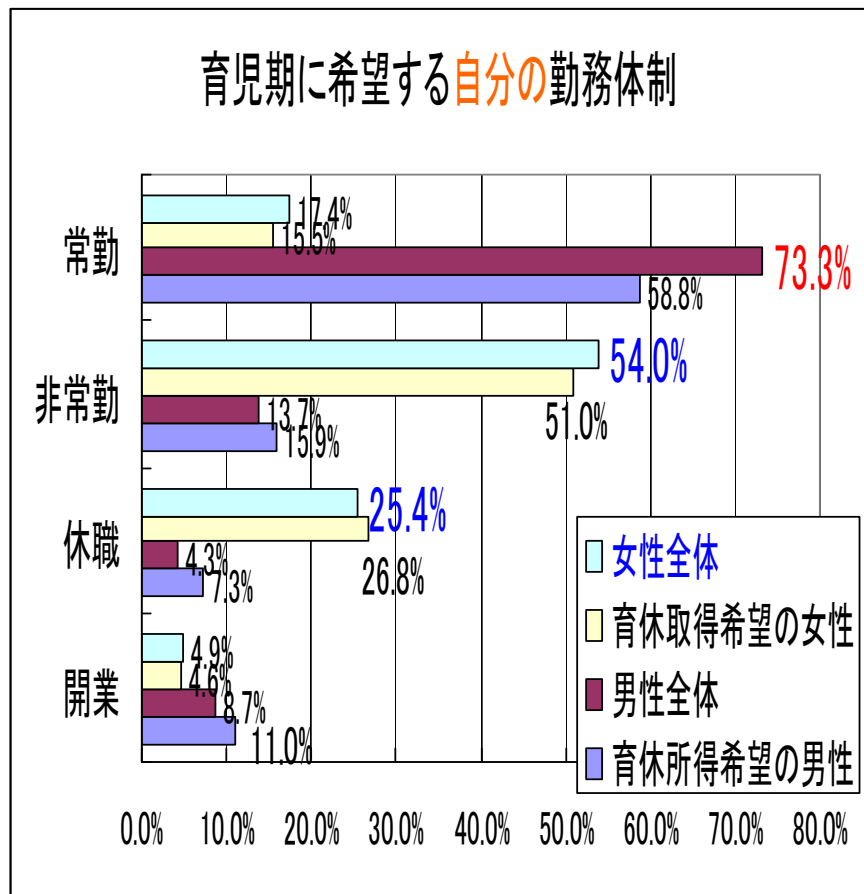
2005年 愛知協会実施 医学生・歯学生・研修医アンケートより

育児休暇取得したい・・・があきらめも



2005年 愛知協会実施 医学生・歯学生・研修医アンケートより

育児期に希望する自分と相手の勤務体制



2005年 愛知協会実施 医学生・歯学生・研修医アンケートより

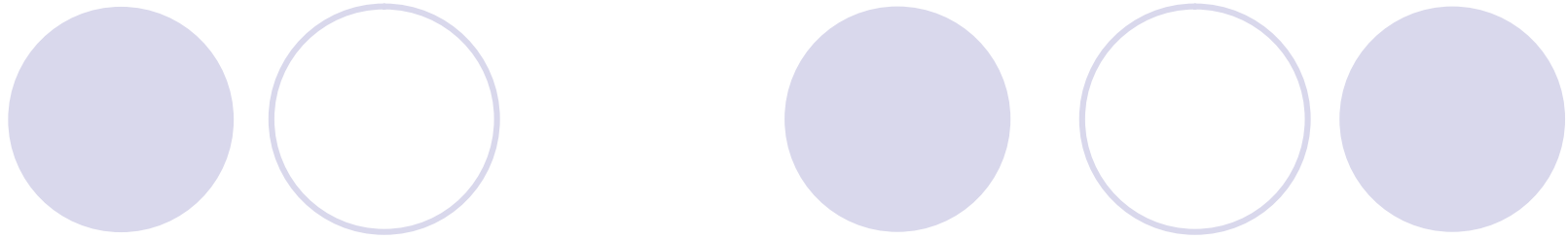
女性医師・歯科医師が働き続けるために必要なこと

1. 産休の保障
2. 家事・育児支援
保育施設(病児保育・病後児保育を含む)の充実
男性の家事・育児への参画(育児休職等)

休職中の女性医師・歯科医師の復職のために必要なこと

(退職している女性医師の復帰支援・現在子育て中の女性医師の育児支援が将来の女性医師の退職防止につながる)

1. 家事・育児支援
2. 再就職支援



女性部は、女性医師の労働環境改善が、女性医師のためだけでなく男性医師の人間的な労働環境改善と共に、患者さんにとって安全な医療の提供につながり、ひいては男性も含めたすべての働く人の労働環境改善につながることを願ってここに提言する。

政府に対して、以下提言する

1. 安全な医療を提供するために必要な医師の労働のあり方・医師のライフ・ワークバランス改善のための因子の検討と数値目標の設定
2. 女性医師の産休制度（勤務医師・開業医師）実現のための研究プロジェクトの設置
3. 医師労働の特性に見合った保育制度（院内、病児・病後児、24時間保育など）、子育て支援策の拡充とワークシェアリングなどの勤務形態の工夫
4. 離職医師の復帰を支える医師再就業支援事業の拡充
5. 子育て費用を税金控除の対象にする